使用説明書

お買い上げありがとうございます。
ミノルタベクティスS-1は、カメラが初めての方にも気軽に写真の楽しさを味わっていただけるように開発された、アドバンストフォトシステム（以下新システム）の一眼レフカメラです。
※このカメラの機能を十分に活用していただくために、この使用説明書をご使用前によくお読みください。またお読みになった後は、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

新システムの特長

①フィルム装填が簡単になりました

新システムのカメラでは「IX240カートリッジフィルム」を使用します。この新フィルムはフィルム部分がすべてカートリッジの中に入っていますから、フィルム室にポンと入れるだけの簡単操作でカメラに装填できます。
また、使用状態マークでフィルムの使用状態を一目で見分けることができます。

②3種類のプリントタイプが選べます

新システムのカメラでは、プリントのタイプをCタイプ、Hタイプ、Pタイプの3つから選べます。また、1本のフィルムの中で自由に切り替えることができます。

C H P

③新システムのカメラではこんなことができます

カートリッジ途中交換機能（P.33～P.34）

撮影の途中でいったんフィルムを取り出し、またカメラに入れて、続きから撮影することができます。

プリント枚数指定機能（P.65～P.66）

撮影前にプリントする枚数（焼き増しする枚数）を指定することができます。

日付印字機能、タイトル印字機能（P.67～P.74）

日付や時間をプリントの裏表両面または裏面に印字することができます。また、“タンジョウビ” などのタイトルをプリントの裏面に印字することができます。

※現像・プリント取扱店によっては、一部機能に対応していないところもあります。

④現像・焼き増しも簡単です

お店に現像・プリントを依頼されると、フィルムはカートリッジに入った状態で、インデックスプリント（1本のフィルム内のすべての写真を、まとめて1枚にプリントしたもの）といっしょに返却されます。

このインデックスプリントを見れば、撮った写真を一目で確認でき、焼き増ししたいコマの指定も簡単にできます。

目次

写真の描写を変えてみましょう

有効にご活用いただくために

知っておくと便利です

正しく安全にお使いいただくために

絵表示について

この使用説明書では、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を用いています。絵表示の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告	この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視した取り扱いをすると、人が重傷を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

	△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。△の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⃠記号は、行為を禁止する内容を告げるものです。⃠の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

安全上の注意

使用する前にすべての説明を読み、よく理解して正しく安全に使用してください。

 警告

	火傷の恐れがあります。フラッシュ発光のとき、発光部が大変熱くなります。発光部に皮膚や物を密着させた状態で、発光させないでください。
	失明の恐れがあります。ファインダーを通して直接太陽を見ないでください。
	火災の恐れがあります。直射日光の当たる場所に放置しないでください。太陽光が近くのものに結像すると、火災の原因となります。

<table>
<tr><td></td><td>けがの恐れがあります。ファインダーをのぞきながら歩かないでください。つまづいたり、転倒するなどけがの原因となります。</td></tr>
<tr><td></td><td>一時的な視力低下の恐れがあります。人や動物の目に近づけてフラッシュを発光させないでください。特に乳幼児を撮影される場合は、フラッシュの最短撮影距離以上離れてください。</td></tr>
<tr><td></td><td>感電の恐れがあります。
●落としたり、損傷させて内部が露出した場合は、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。また内部に手を触れないでください。
●分解しないでください。修理や分解が必要な場合は、当社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。内部の高圧回路に触れると、感電の原因となります。
</td></tr>
</table>

電池に関する警告

破裂の恐れがあります。電池に記載されている注意書きをお守りください。電池の注意書きを無視して使用すると、破裂や爆発の原因となります。

電池の液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。次のことは絶対にしないでください。

●電池の極性（＋／－）を逆に入れる。
●表面の被膜の破れた電池を使用する。
●火中への投入や充電、ショート、分解、加熱。
●新しい電池と古い電池を混ぜて使用する。
●種類の異なる電池を混ぜて使用する。

正しく安全にお使いいただくために

ご自分で判断のできない方、あるいは、幼児・児童の近くでご使用になる場合は、以下の点にもご注意ください。

警告

●目の前でフラッシュが発光し、一時的な視力低下を起こす
●ストラップが首に巻き付く
などの事故の恐れがあります。
ご自分で判断のできない方、幼児・児童の近くでご使用になる場合は、綿密に管理してください。また、製品および付属品は幼児・児童の手の届かないところに保管してください。

注意

幼児が飲み込む恐れがあります。幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

電池に関する注意

幼児が飲み込む恐れがあります。電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

防滴についての注意

このカメラは、小雨や雪の中で撮影しても安心なJIS保護等級2（防滴II型）相当の防滴設計になっています。ただし、水圧に耐える防水性能は備えていませんので、水中での使用や水洗いはできません。さらに、下記の点に注意してお使いください。

(1) 屋外で撮影中に雨が強く降ってきたときは、すみやかに、雨に濡れないところにカメラを片付けてください。また雨中に放置しないでください。

(2) 短時間でも、カメラを流水やシャワーに当てないでください。また、バケツ等でカメラに水をかけないでください。

(3) カメラに水滴がついたまま長時間放置すると、内部に水が入る恐れがあります。水滴や汚れが付いた場合は、なるべく早く乾いた柔らかい布で、カメラ内部に水滴が入らないよう注意してふき取ってください。特にジュースや海水など糖分や塩分を含んだものは、故障の原因になりますので、かからないように注意してください。

(4) カメラに砂や泥が大量にかかると、故障の原因になります。浜辺などではカメラを砂の上に直接置かないでください。

(5) カメラの内部は防滴設計になっていませんので、

- フィルム室や電池室を開けるとき、レンズを取り外すときや、フラッシュを取り付けるときは、カメラの水滴や汚れをよくふき取ってから行なってください。
- フィルムや電池の出し入れや、レンズの取り付け・取り外しは、水滴・砂・ホコリのかからない場所で、乾いた手で行なってください。

(6) フィルム室ふたや電池室ふたは、カチッと音がするまできっちりと閉じてください。ふたを閉じる際に、パッキンやその周辺に水滴や砂が付いているときは、柔らかい乾いた布で取り除いてください。

(7) フィルム室ふたや電池室ふたのパッキンは常にきれいにしておいてください。切れたり、伸びたり、キズができているときは、当社サービスセンター・サービスステーションにお持ちください。

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は-10～50℃です。
- 直射日光下の車など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。
- 電池の性能は、低温下では低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池を用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

新システムフィルムの取り扱いについて

- 新システムフィルムでは磁気情報を使用していますので、フィルムを磁石に近づけたり、強い磁界の発生しているところ（テレビ受像機やスピーカーの上など）に置かないでください。磁気情報が失われて、新システムの性能を十分に発揮できなくなることがあります。

各部の名称

(　) は参照ページです。
*のついたところは、触らないでください。

ボディ

各部の名称

メインスイッチ
ファインダー*
フィルム室
開放ボタン
(27, 32)
背面カバー
ボディ表示部 (14)
プリントタイプ
切り替えレバー (30)
ストラップ
取り付け部
(19)
FILM
ON/OFF
AV
MODE
+/-
SPOT
ASM
P
途中巻き
戻しボタン (32)
撮影シーン／露出モード
選択ボタン
(48〜53, 56〜63)
露出補正／Mモード
絞りボタン (62, 84)
フラッシュモード選択ボタン
(44)
撮影シーン／露出モード
切り替えレバー
(48〜53, 56〜63)
おまかせＰボタン (96)
ダイヤル
スポットAEL／スローシンクロボタン
(82, 95)

タイトル選択ボタン (70〜74)

日付／時間印字ボタン
(67〜69)

セルフタイマー／
連続撮影／リモコ
ン選択ボタン
(75, 76, 77)

プリント枚数指定／FTPMボタン
(65, 66, 86)

セレクト（修正位置選択）
ボタン

赤目軽減／ワイヤレス
フラッシュボタン
(45, 90〜94)

SPOT

DATE TITLE PRINT FTPM SEL WL

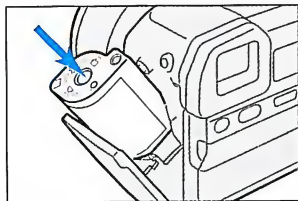
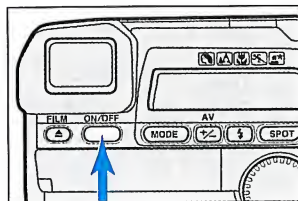
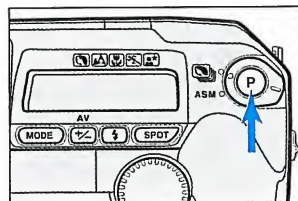
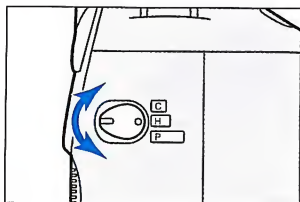
ボディ表示部

撮影シーンセレクター (47)
ポートレート (48)
記念撮影・風景 (49)
クローズアップ (50)
スポーツ (51)
夜景ポートレート・夜景 (52, 53)
連続撮影マーク (76)
フラッシュモードマーク (44, 45)
リモコンマーク (77)
日付／時間マーク (67, 68)
セルフタイマーマーク (75)
タイトルマーク (72〜74)
撮影モードマーク (55〜63)
プリントマーク (65)
フィルム感度マーク (28, 88)
セットマーク
露出補正マーク (85)
ワイヤレスフラッシュマーク(91)
マニュアルフォーカスマーク (40)
フィルムカウンター (28)
フィルムマーク
カートリッジマーク
シャッター速度／フィルム感度／プリント枚数／絞り値／露出補正値／日付／時間／タイトル表示
電池容量表示 (21)
FTPMマーク (87)
AUTO
P
A S M
ISO
WL
M.FOCUS
DATE
TITLE
PRINT
FTPM

ファインダー表示部

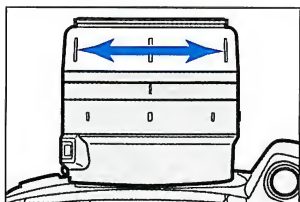
フォーカスエリア (31, 38)
スポット測光サークル (82, 83)
MF
フラッシュ表示 (42)
スポット測光マーク (83, 95)
マニュアルフォーカスマーク (39, 40)
絞り値／露出補正表示 (56, 62, 85)
フォーカス表示 (36)
露出補正マーク (85)
シャッター速度表示 (59, 62)

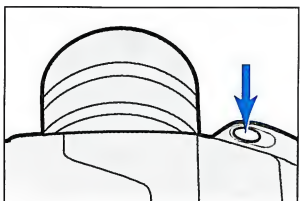
撮影早わかり（詳しくは本文をご覧ください。）

1. レンズを取り付けます。
レンズとボディの２つの赤点を合わせてはめ込み、カチッとロックがかかるまで時計方向に回します。

2. フィルムを入れます。
フィルムの使用状態マーク面（●などのある面）を上にして入れます。
●または◗の状態になっているフィルムをお使いください。

3. メインスイッチをＯＮにします。
電源が入ります。

4. おまかせＰボタンを押します。
カメラは全自動の状態になります。

5. プリントタイプを選びます。

C（縦横比2:3）、H（9:16）、P（1:3）の中から選びます。

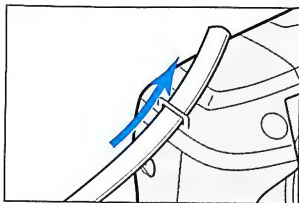
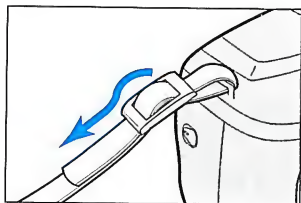
6. ピントを合わせます。

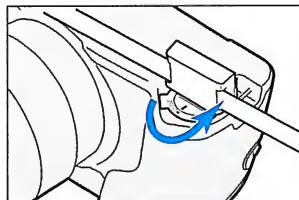
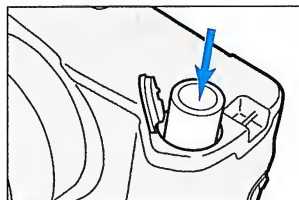
写したいものが［　］に入るようにカメラを構え、シャッターボタンを途中まで軽く押します。フラッシュが必要な場合には、自動的にフラッシュが上がります。

7. 構図を決めます。

ズームリングを回して希望の大きさを決めます（ズームレンズ使用の場合）。

8. 撮影します。

シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

撮影しましょう

ストラップを取り付けます

付属のストラップを取り付けると、持ち運びに便利です。底面側も同様に取り付けてください。

電池を入れます

3Vリチウム電池CR2を2個使用します。お買い上げの際には、電池はすでに入っています。

1. ストラップに付いているアイピースキャップの先を電池室ふたの溝に差し込み、「OPEN」の位置まで回して開けます。

2. 電池室内側の＋／－表示にしたがって電池を入れます。

3. ふたを閉めて、「CLOSE」の位置までふたを回します。

● ふたを閉めると、自動的にメインスイッチが入ります。

● カメラの汚れや水分をふき取ってから、水滴・砂・ホコリのかからない場所で、乾いた手で操作してください。

● 電池室ふたのパッキンに水滴や砂などがついているときは、乾いた布でふき取ってください。

● 電池の交換後、メインスイッチを入れたときにボディ表示部に ---- -- と DATE が点滅していたら、日付・時間を設定し直してください(68ページ参照)。

電池容量の確認

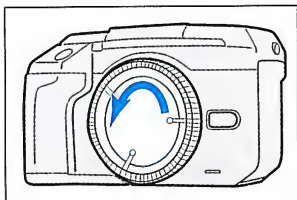
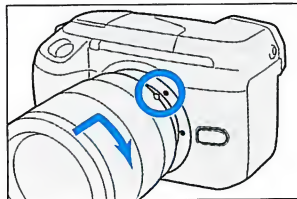
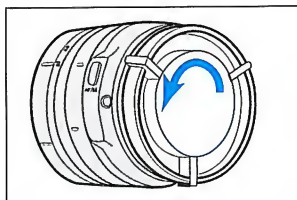
メインスイッチを入れるたびに、自動的に電池の容量がチェックされ、ボディ表示部にその結果が表示されます。

表示	説明
点灯（2秒間）	電池容量は十分です。
点滅	電池を交換することをおすすめします（この状態でも撮影できます）。
のみ点滅（他の表示すべて消灯）	新しい電池と交換してください（シャッターは切れません）。

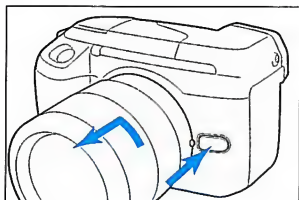
●電源を入れても何も表示されないときは、まず電池の向きを確認してください。それでも何も表示されないときは、電池を交換してください。

●お買い上げのときに入っている電池は出荷時に入れたものなので、新品電池と比べて消耗が早くなることがあります。

レンズの取り付け方・取り外し方

取り付け方

1. カメラのボディキャップ、レンズの後キャップを外します。

2. レンズとカメラの2つの赤い点を合わせてはめ込み、カチッと音がするまで矢印方向に回します。

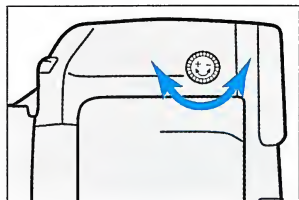
●レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。
●レンズをカメラに斜めに差し込まないようにしてください。

取り外し方

レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取り外します。

●取り外した後は、カメラ側・レンズ側ともキャップを付けて保管してください。

●カメラの汚れや水分をふき取ってから、水滴・砂・ホコリのかからない場所で、乾いた手で操作してください。
●マウントの周りのパッキンやレンズの接合面に水滴や砂などが付いているときは、乾いた布でふき取ってから取り付け・取り外しをしてください。
●カメラの内部、特にレンズ信号接点やミラーに触れたり傷をつけたりしないように、また内部に水滴・砂・ホコリが入らないように気を付けてください。
●レンズに無理な力を加えないでください。

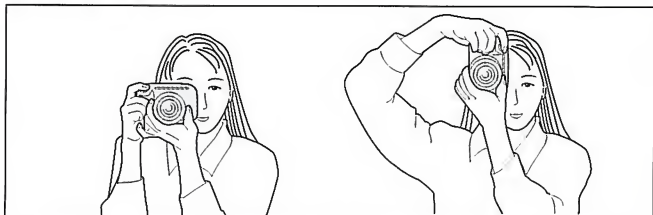
ファインダーが見えにくいときは（視度調整）

眼の調子によりファインダー内の像がはっきりと見えないときは、ファインダーの視度を調整して見やすくすることができます。

1. ファインダーをのぞき、シャッターボタンを軽く押してピントを合わせます。

2. 被写体がもっともはっきり見えるよう、視度調整ダイヤルを回します。

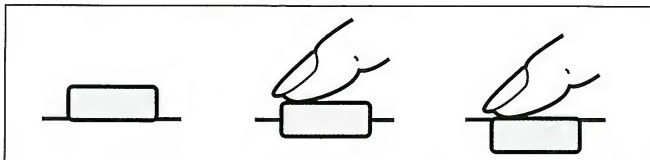
●遠視の場合は＋方向へ、近視の場合は－方向へ回してください。

カメラの構え方·シャッターボタンの押し方

カメラの構え方

カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

- 右手でカメラのグリップを持ち、脇をしめ、左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュなしで撮影する場合や、望遠レンズを使う場合は、手ぶれが起こりやすくなります。このような場合は三脚にカメラを固定して撮影してください。
- 別売フラッシュを使って縦位置で撮影するときは、フラッシュを上にして構えてください。下にすると影が見苦しくなります。

シャッターボタンの押し方

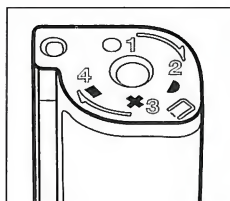
シャッターボタンは2段階になっています。シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書ではここまで押すことを「半押し」と呼んでいます。シャッターボタンを半押しすると、カメラはピントを合わせます。半押しの状態からさらに2段目まで押し込むとシャッターが切れます。

フィルムを入れます

このカメラでは、新システム用のフィルム（IX240カートリッジフィルム）を使用します。

●カメラの汚れや水分をふき取ってから、水滴・砂・ホコリのかからない場所で、乾いた手で操作してください。

●フィルム室ふたのパッキンやその周辺に水滴や砂などが付いているときは、乾いた布でふき取ってください。

使用状態マークについて

新システム用のフィルムは、フィルムの使用状態（露光状態）を4つのマークでお知らせします。4つのマークの内の違う色になっているのが、そのフィルムの状態です。

● 未使用のフィルムです。

◗ 途中まで撮影済みのフィルムです。

✖ 全コマ撮影済みのフィルムです（未現像）。

■ 現像済みのフィルムです。

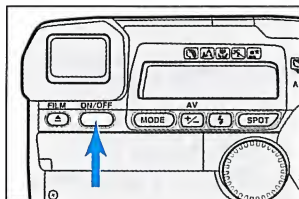
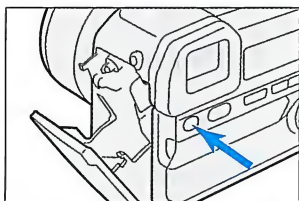
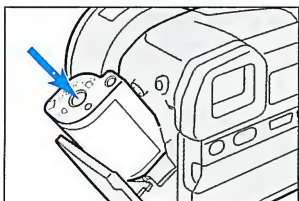
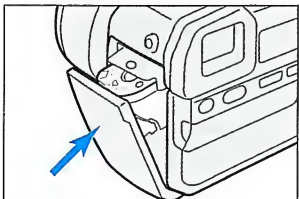
このカメラでは、次のマークのフィルムが使用できます。

・●（未使用）のマークのフィルム

・当社製のカメラで途中巻き戻しをした、◗（途中まで撮影済み）のマークのフィルム

カートリッジ途中交換機能（33ページ参照）付きのカメラで途中巻き戻しをすると◗のマークになりますが、他社製のカメラで巻き戻したものは使用しないでください。フィルムが読みとれないことがあります。

●✖や■のマークのフィルムを入れても、撮影はできません（誤装填防止機能）。

フィルムの入れ方

1. メインスイッチを入れます。

2. フィルム室開放ボタンを押してフィルム室を開けます。

3. 使用状態マーク面を上にして、フィルムを入れます。

4. フィルム室を閉じます。

(次ページへ続く)

フィルムを入れます

フィルム室を閉じると、まずボディ表示部にフィルム感度が表示されます。

続いてフィルムが1コマ目まで巻き上げられます。

●約10秒後に巻き上げが完了し、ボディ表示部にフィルムの残り枚数が表示されます（逆算式カウンター）。

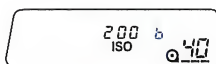
● ◗ のマークのフィルムを入れたときには、撮影されていないコマまで巻き上げられます。

●メインスイッチが入っていなくてもフィルムを入れることができます。

●フィルムを入れた後は、メインスイッチを入れるたびに、ボディ表示部にフィルム感度とフィルムの残り枚数が表示されます。

●●または◗のマークのフィルムを入れて1枚も撮影していないときは、途中巻き戻しボタン、その後フィルム室開放ボタンを押してフィルムを取り出すことができます。このとき、使用状態マークは変わりません。

●フィルムが入っている状態でフィルム室開放ボタンを押しても、フィルム室は開きません（セーフティロック）。このときは、ボディ表示部にフィルム感度等が表示されます。

リバーサルフィルムを入れた場合は、フィルムを入れたときにフィルム感度と同時に「CS」（カラースライド）が表示されます。

白黒フィルムを入れた場合は、フィルム感度と同時に「b」（ブラック／ホワイト）が表示されます。

ボディ表示部に0が点滅したときは、以下をご覧ください。

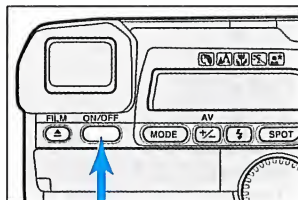
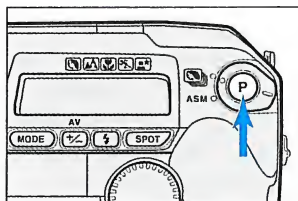
使用状態マークが✕または■のフィルムを入れたとき

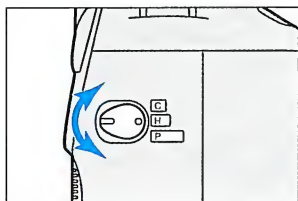
フィルムを取り出し、マークが●か◗のフィルムを入れてください。使用状態マークが■のフィルムをカメラに入れると、取り出したときマークは✕になります。

使用状態マークが●または◗のフィルムを入れたとき

フィルムを取り出し、もう一度入れてください。または、フィルムと電池を両方取り出し、両方とも入れ直してください。それでも巻き上げられないときは、カメラとフィルムをお近くのサービスセンター、サービスステーションにお持ちください。

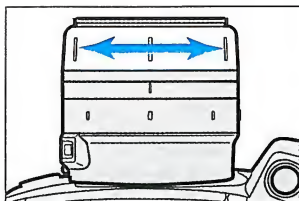
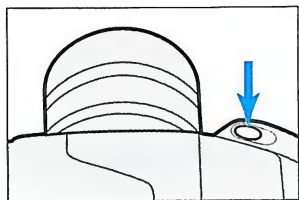
おまかせＰモードで撮影しましょう

おまかせＰモードでは、シャッターボタンを押すだけできれいな写真が撮れます。ピント合わせは自動で行われ、フラッシュは必要なときに自動的に発光します。

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

2. おまかせＰボタンを押します。

● カメラは全自動の状態になります。特に設定を変えない限り毎回押す必要はありません。

3. プリントタイプを選びます。

● C（縦横比2:3）、H（9:16）、P（1:3）の中から選びます。

4. ピントを合わせたいものが［　］に入るようにカメラを構え、シャッターボタンを半押しします。

●フラッシュが発光する場合、フラッシュが自動的に上がります。

5. 撮影したいものが希望の大きさになるように、レンズのズームリングを回します。（ズームレンズ使用の場合）

6. シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

●ピントを合わせたいものが［　］に入らないときは、一度ピントを固定して、その後構図を変えます（38ページ参照）。

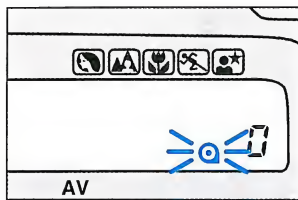
シャッターボタンを半押しすると、ファインダーの下部に次のマーク等が表示されます。

●⚡は、フラッシュの状態を表します。⚡が点灯すると、フラッシュが発光します（充電済み）。⚡が表示されないときは、フラッシュは発光しません。

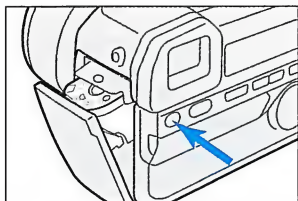
●•または(•)は、ピントの状態を表します。これらが点灯しているときは、ピントが合っていてシャッターを切ることができます。
•が点滅すると、ピントが合わず、シャッターも切れません（36ページ参照）。

●250、5.6等の数字は、それぞれシャッター速度と絞り値を表します。

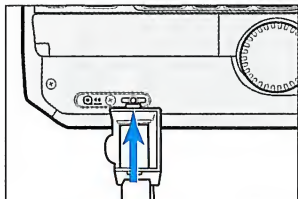
フィルムを取り出します

フィルムカウンターが０になると、自動的に巻き戻しが始まります。

1. 巻き戻しが終了するまで待ちます。

●巻き戻し中は、フィルムカウンターの数字が順に減っていきます。

●フィルムカウンターが「０」になり、◎が点滅したら、巻き戻しは終了です。

2. フィルム室開放ボタンを押してフィルムを取り出します。

●取り出したフィルムのマークは、✖（撮影済、未現像）になっています。

フイルムを最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいとき

1. ストラップに付いているアイピースキャップの側面部で、途中巻き戻しボタンを軽く押します。

●巻き戻しが始まります。

2. フィルムカウンターが「０」になり、◎が点滅したら、フィルム室開放ボタンを押してフィルムを取り出します。

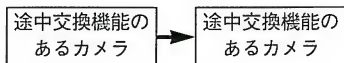
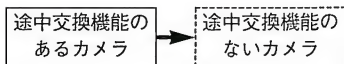
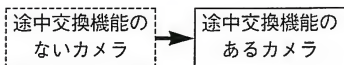
●取り出したフィルムのマークは、◗（撮影途中）になっています。

カートリッジ途中交換機能

このカメラでは、撮影の途中で巻き戻していったん取り出したフィルムを、またカメラに入れて続きから撮影することができます。カートリッジ途中交換機能を備えたカメラどうし*なら、一度撮り出したフィルムを別のカメラに入れて撮影を続けることもできます。カラーフィルムと白黒フィルムを使い分けたいとき、他の人のカメラを借りるとき等に便利です。

* 当社製のカメラのみ。それ以外のカメラで途中巻き戻ししたフィルムの場合、◗のフィルムでもこのカメラでは使えません。

途中巻き戻ししたカメラ		続きを撮影しようとするカメラ
途中交換機能のあるカメラ	→	途中交換機能のあるカメラ

○

途中巻き戻ししたフィルムは◗（撮影途中）になっています。続きから撮影できます。

途中巻き戻ししたフィルムは◗（撮影途中）になっていますが、いったん途中交換機能のないカメラにこのフィルムを入れると、✖（撮影済、未現像）になります。一度✖になると、途中交換機能のあるカメラでも続きから撮影することはできません。

途中巻き戻ししたフィルムは✖（撮影済、未現像）になっています。途中交換機能のあるカメラにこのフィルムを入れても、続きから撮影することはできません。

（次ページへ続く）

フィルムを取り出します

途中巻き戻しした◗のフィルムをカメラに入れるときは、以下の点にご注意ください。

●別売フラッシュ（ベクティスフラッシュ、プログラムフラッシュ）はあらかじめ外しておいてください。また、フィルムを入れた後カメラが動いている間は、フラッシュを取り付けないでください。

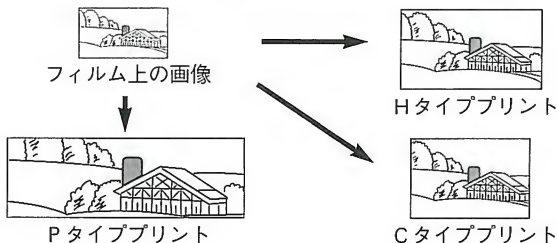
●作動中の電子レンジ、スピーカー、ドライヤーなどの電気製品から1m以上離れたところでフィルムを入れてください。

現像・プリントに出すときは

このカメラで撮影したフィルムを現像・プリントに出すときは、「現像プリントサービス認定店」の認定マークを掲示しているお店にお出しください。認定店でのサービスについては、97ページをご覧ください。

●各プリントタイプの標準的な仕上がりサイズは、Cタイプ89x127mm、Hタイプ89x158mm、Pタイプ89x254mmです。

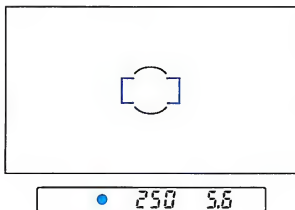
焼き増しを頼むときは

焼き増しを頼むときに、撮影時の設定と違うプリントタイプで焼き増しすることもできます。どのプリントタイプで撮影しても、フィルム上には常にHタイプで記録されているためです。

ピント合わせ

ピント合わせ（オートフォーカス）

このカメラでは、シャッターボタンを半押しすると自動的にピントが合います。ファインダー内のフォーカス表示が点灯または点滅し、ピントの状態をお知らせします。
ピントが合わないと、シャッターが切れません。

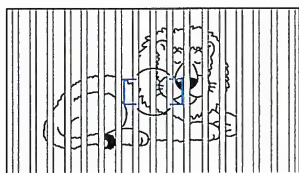
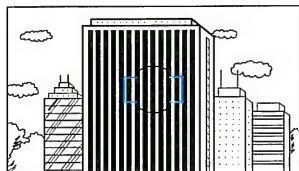
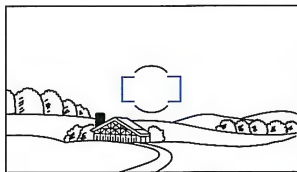
フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に以下のフォーカス表示のどれかが表示され、ピントの状態をお知らせします。

● 点灯：　ピントが合っています。
(●)点灯：　ピントが合っています。
　　被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
( )点灯：　ピント合わせの途中です。シャッターは切れません。
● 点滅：　ピントが合わず、シャッターも切れません。

● が点滅したときは、以下のことを確認してください。

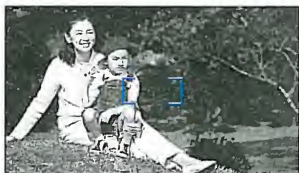
- オートフォーカスの苦手な被写体を撮影しようとしていませんか（次ページ参照）。
- ご使用になっているレンズの最短撮影距離よりも近いものを撮影しようとしていませんか。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは、被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、以下のような被写体では、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、写したいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものにピントを合わせてから構図を変える（次ページ参照）か、手動によるピント合わせ（40ページ参照）を行ってください。

● おりの中の動物など、［　］の中に距離の異なるものが混じっているとき

● ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの

● 青空や壁などコントラスト（明暗差）のないもの、またははっきりしないもの
● 太陽のように明るすぎるものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

撮りたいものが画面中央にないときは（フォーカスロック）

ピントを合わせたいものが［　］に入らないときにそのまま撮影すると、［　］の位置にある背景にピントが合って人物がぼけた写真になってしまいます。このようにピントを合わせたいものが［　］の位置にないときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1. ピントを合わせたいものに［　］を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

2. 半押ししたまま、撮りたい構図にします。

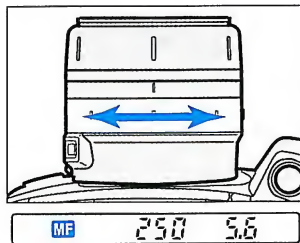
3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● ● が点灯しないとき（スポーツモードや被写体が動いているときなど）は、ピントを固定することはできません。

ピントの微調整（ダイレクトマニュアルフォーカス）

一度オートフォーカスでピントを合わせた後、ピント位置を調整することができます。ポートレートやマクロ撮影などでピント位置を少しずらしたいときに便利です。

●フォーカスリングのないレンズではこの機能は使えません。

1. シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

2. 半押ししたままレンズのフォーカスリングを回して、希望の位置にピントを合わせ直します。

●ファインダー内の MF が点灯します。

3. そのままシャッターボタンを押し込んで撮影します。

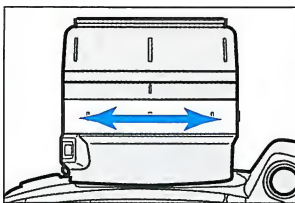
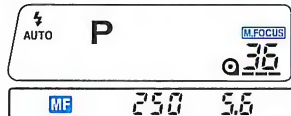
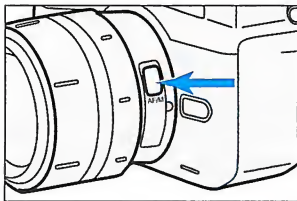
●［　］内のものにピントが合うとファインダー内のフォーカス表示●が点灯します。

●シャッターボタンを半押しせずにフォーカスリングを回しても、ピント位置は変わりません。

●((●))または(( ))が点灯しているとき（スポーツモードや被写体が動いているときなど）は、この機能は使えません。

手動によるピント合わせ(マニュアルフォーカス)

オートフォーカスを使わずに手動でピントを合わせることもできます。

●フォーカスリングのないレンズではこの機能は使えません。

1. レンズ上のフォーカスモードボタンを押します。

●ボディ表示部に M.FOCUS が、ファインダー内に MF が表示されます。

2. フォーカスリングを回して、被写体がもっともはっきり見えるようにします。

●［　］内のものにピントが合うとファインダー内のフォーカス表示●が点灯します。

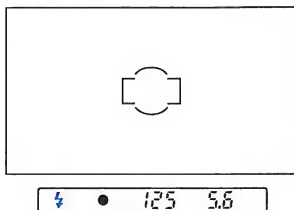
●もう一度フォーカスモードボタンを押すと、オートフォーカスに戻ります。

フラッシュ撮影

内蔵フラッシュの使い方

おまかせPモードでは、フラッシュが必要な場合は、シャッターボタンを半押しすると内蔵フラッシュが自動的に上がり、シャッターを切るとフラッシュが発光します。フラッシュを最初から上げていると、必要な場合には自動的に発光します。

- ●フラッシュを下げるときは、手で押し下げてください。
- ●フラッシュが充電するまで（ファインダー内の ⚡ が点灯するまで）はシャッターは切れません。

フラッシュ表示

⚡ 点灯：　フラッシュの充電が完了しました。撮影できます。
⚡ 点滅（撮影後）：　フラッシュ光が被写体に届きました。

撮影後 ⚡ が点滅しなかったときは、フラッシュ光が被写体に届いていません。被写体がフラッシュ光の届く範囲内にあるか確かめてください。

フラッシュ光の届く範囲

フラッシュ光の届く範囲には限界があり、絞り値とフィルムによって異なります。内蔵フラッシュで撮影をするときには、以下の範囲内に写したいものを入れて撮影してください。

22-80mm F4-5.6または28-56mm F4-5.6のレンズとISO 200のフィルムを使って内蔵フラッシュで撮影する場合

広角側で0.6-3.5m、中程で0.6-3.1m、望遠側で0.6-2.5m

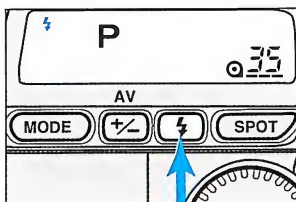
上記以外のレンズで内蔵フラッシュ撮影をする場合は、以下の表を参考にしてください。　　（ISO 200フィルム使用の場合）

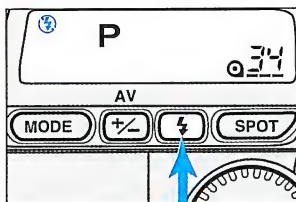
絞り値	フラッシュ撮影範囲
F3.5	0.6m - 4.0m
F4.0	0.6m - 3.5m
F4.8	0.6m - 2.9m
F5.6	0.6m - 2.5m

●高感度フィルムを使うと、遠距離側の範囲が広くなります。
●内蔵フラッシュで撮影する場合は、フラッシュ光がレンズでさえぎられて写真の下部に影ができることがあります。以下のことに気を付けて撮影してください。
・0.6m以上離れて撮影してください。
・レンズフードは取り外してください。
●別売のフラッシュを使用すると、フラッシュ光の届く範囲が広くなります。

フラッシュを必ず発光させたいとき／させたくないとき

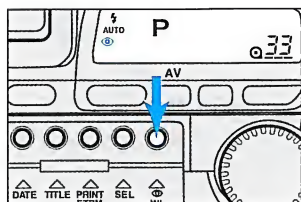
おまかせPモードでは、通常フラッシュは必要なときに自動的に発光します（自動発光）が、必ず発光させる（強制発光）、または発光させない（発光禁止）こともできます。

フラッシュを必ず発光させたいとき（強制発光）

フラッシュモード選択ボタンを押して、ボディ表示部に ϟ を表示させます。

フラッシュを発光させたくないとき（発光禁止）

フラッシュモード選択ボタンを押して、ボディ表示部に ⓧ を表示させます。

●暗いところで発光禁止 ⓧ を選んで撮影すると、シャッター速度が遅くなり、写真がぶれやすくなります。三脚等を使って撮影してください。

目が赤く写るのを軽減します（赤目軽減）

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュ光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。撮影の直前に小光量のフラッシュを何回か発光させると、この現象を和らげることができます。

カメラ背面のカバーを開け、赤目軽減ボタンを押します。

- ボディ表示部に ◎ が表示され、シャッターが切れる前に数回フラッシュが発光します。
- もう一度赤目軽減ボタンを押すと、通常の（発光が１回きりの）フラッシュ撮影に戻ります。
- シャッターボタンを押してからシャッターが切れるまでの間、カメラを動かしたり、被写体が動いたりしないように注意してください。

撮影シーンに
合わせて
撮ってみましょう

撮影シーンセレクターを使うと、絵表示を選ぶだけで撮りたい場面にあった写真を撮ることができます。

撮影シーンセレクター

撮影したい場面を５種類の絵表示の中から選ぶと、それに合わせてカメラがシャッター速度と絞り値を自動的に設定し、その場面にあった写真を撮ることができます。

ポートレート
人物が浮き立つように、背景が美しくぼけて写ります。

記念撮影・風景
どこで撮影したかすぐ分かるように、手前の人物にも背景にもピントが合うように写ります。

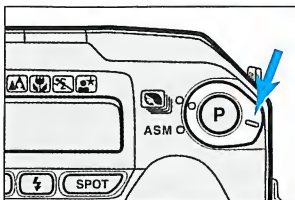
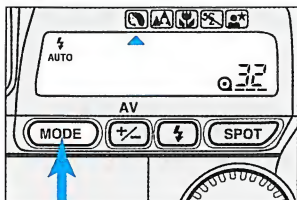
クローズアップ
小さな草花や昆虫などを撮影するときに使います。

スポーツ
速く動いているものでもぶれないように写ります。

夜景ポートレート・夜景
夜景がつぶれることなくきれいに写ります。

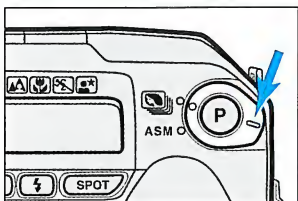
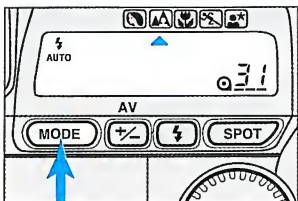
● おまかせＰボタンを押すとカメラは全自動の状態になり、ボディ表示部にＰが表示されます。

ポートレート

背景を程よくぼかし、人物をくっきりと立体的に引き立たせます。

1. 撮影シーン／露出モード切り替えレバーを 側にします。

2. 撮影シーン／露出モード選択ボタンを押して を選びます。

●逆光のときや、顔に影ができているときは、フラッシュの使用をおすすめします。
●背景をぼかすには、レンズの望遠側のほうが効果があります。

記念撮影・風景

手前の人物も、思い出に残したい背景も、両方ともくっきりと写します。風景写真もシャープに写せます。

1. 撮影シーン／露出モード切り替えレバーを［アイコン］側にします。

2. 撮影シーン／露出モード選択ボタンを押して［アイコン］を選びます。

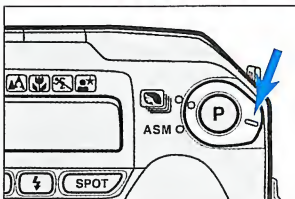
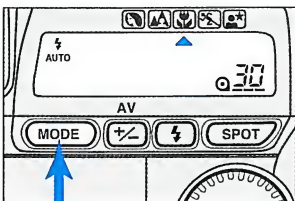
●記念撮影で逆光の時は、フラッシュの使用をおすすめします。風景のみ撮影する場合は、フラッシュ光が届かないのでフラッシュは使用しないでください（フラッシュモード選択ボタンで発光禁止［アイコン］を選んでください）。フラッシュ光の届く範囲については43ページを参照してください。

●曇りの日などそれほど明るくないときは、手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

●夜景をバックに記念撮影する場合は、夜景ポートレートモードをお使いください。

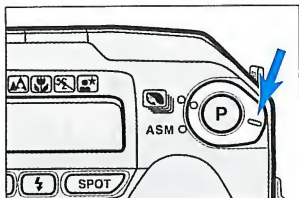
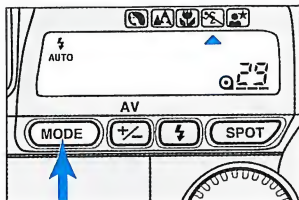
●画面全体にピントを合わせるには、レンズの広角側のほうが効果があります。

クローズアップ

小さな草花や昆虫などを撮影するときに使います。

1. 撮影シーン／露出モード切り替えレバーを側にします。

2. 撮影シーン／露出モード選択ボタンを押してを選びます。

- 0.6m以内の距離では、写真の下部に影ができるため、内蔵フラッシュは使わないでください。0.6m以内のフラッシュ撮影には、別売のベクティスフラッシュSF-1をおすすめします。
- クローズアップ撮影では手ぶれが目立ちやすくなるので、三脚の使用をおすすめします。
- レンズの最短撮影距離に注意して撮影してください。
- より大きく撮影するには、Vマクロ 50mm F3.5をおすすめします。

スポーツ

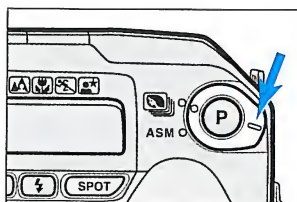
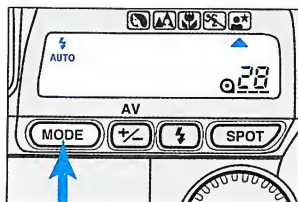
速く動いているものを速いシャッター速度でシャープに写し止めます。

1. 撮影シーン／露出モード切り替えレバーを側にします。

2. 撮影シーン／露出モード選択ボタンを押してを選びます。

- このモードでは、ピント位置は固定せず、常に動き続けます。
- 高感度フィルム（ISO 400等）の使用をおすすめします。
- フラッシュ光が届かない場合（フラッシュ光の届く範囲については43ページ参照）は、フラッシュは使用しないでください。
- 望遠レンズ使用時には、手ぶれしやすいので三脚の使用をおすすめします。

夜景ポートレート・夜景

夜景ポートレート撮影（人物＋夜景の場合）

夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュ光の届かない背景は黒くつぶれてしまいます。そのような場合にこのモードを使うと、人物も背景もきれいに撮ることができます。

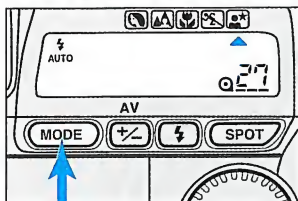
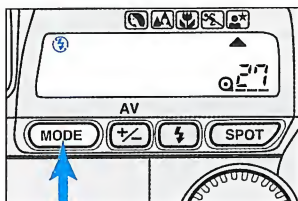
1. 撮影シーン／露出モード切り替えレバーを［夜景アイコン］側にします。

2. 撮影シーン／露出モード選択ボタンを押して［夜景ポートレートアイコン］を選びます。

●手ぶれしやすいので、三脚を使用してください。また、撮影される人物が動くと写真もぶれるので、動かないように注意してください。

●高感度フィルム（ISO 400等）の使用をおすすめします。

●フラッシュは自動発光 AUTO または強制発光 にしてください。

夜景撮影（夜景のみの場合）

フラッシュ光の届かない夜景をきれいに写します。

1. 夜景ポートレート・夜景モードにします。

2. フラッシュモード選択ボタンを押してフラッシュ発光禁止Ⓢを選びます。

●手ぶれしやすいので、三脚を使用してください。
●高感度フィルム（ISO 400等）の使用をおすすめします。
●明かりの少ない全体的に暗い夜景だと、写真がうまく仕上がらないことがあります。
●ピントが合いにくいときは、明るい部分にピントを合わせてから撮影してください（38ページ参照）。

写真の描写を変えてみましょう

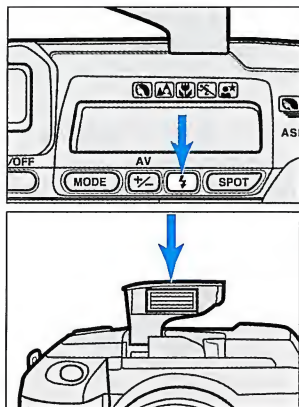
絞り値やシャッター速度なを直接コントロールして、背景の描写や動いているものの描写などを撮影者の思い通りに設定することができます。

この章は、一眼レフカメラを初めてお使いになる方には多少難しいかもしれません。分かりにくければ、64ページからの「有効にご活用いただくために」から先にお読みください。

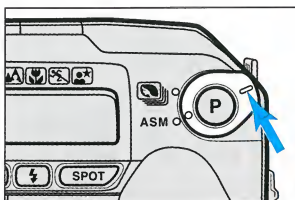
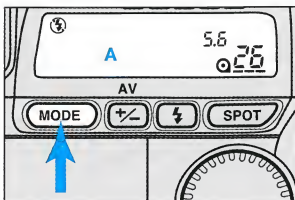
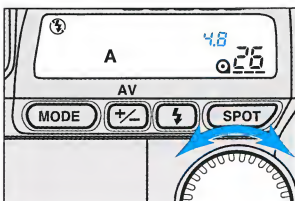
露出モード

ある一つの場面がどのように写真上で再現されるかは、おもにカメラの絞り値とシャッター速度によって決まります。Pモードおよび撮影シーンセレクターでは、カメラが自動的にこれらの設定をします。露出モードを変えることによって、このうちのひとつまたは両方を撮影者が自由に選ぶことができるようになり、より思い通りの写真が撮れるようになります。

Aモード　絞り値を変えることによって、背景描写のコントロールができます。
Sモード　シャッター速度を変えることにより、動いているものの表現方法を変えることができます。
Mモード　絞り値とシャッター速度の両方を自由に設定できます。

●おまかせPボタンを押すとカメラは全自動の状態になり、ボディ表示部にPが表示されます。

●A／S／Mモードでは、フラッシュは自動的に発光しません。フラッシュが必要なときは、フラッシュモード選択ボタンを押してフラッシュを上げてください。フラッシュを必要としないときは、フラッシュを下げてください。詳しくはそれぞれのモードの説明をご覧ください。

背景の描写を変えてみましょう(Aモード撮影)

このモードでは、カメラの絞り値を変えることができます。絞り値が変わると被写体以外のもののピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。絞り値を大きくすると近くのものから遠くのものまでくっきりと写り、小さくすると被写体以外のものがぼけやすくなります。

1. 撮影シーン/露出モード切り替えレバーをASM側にします。

2 撮影シーン/露出モード選択ボタンを押して、ボディ表示部にAを表示させます。

3. ダイヤルを回して希望の絞り値を選びます。

●設定できる絞り値の範囲は、使用レンズによって決まります。

●シャッター速度が2000または30"で点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたはアンダーの写真になります。点滅しなくなるまで絞り値を変更してください。

●ファインダーをのぞいたときは、ピント位置の確認のため、常に背景がぼけた状態になっています。絞り値を大きくしても背景までピントが合っているようには見えませんが、フイルム上およびプリントでは背景までピントが合って写ります。

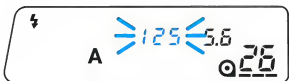
Aモードフラッシュ撮影

フラッシュは自動発光しません。フラッシュモード選択ボタンを押してフラッシュを上げて撮影してください。

●ボディ表示部には ϟ が表示されます。

●シャッター速度は自動的に1/125秒になります。

●絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。できるだけ絞り値を小さくして（開放側で）撮影してください。

●フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。ボディ表示部には㊋が表示されます。

●シャッター速度が125で点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーの写真になります。点滅しなくなるまで絞り値を大きくして（絞りを絞り込んで）ください。

背景の描写を変えてみましょう（Aモード撮影）

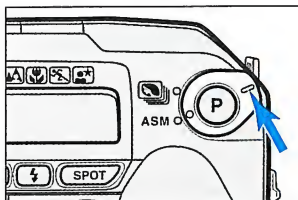
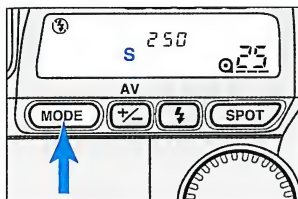
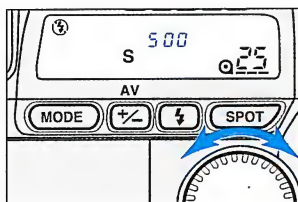
絞り値が小さいとき
（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

左の写真は、絞り値が小さい状態で撮影しています。ピントが被写体のみに合っていて背景はぼけており、人物がくっきり浮き出てポートレートとしてふさわしい写真になっています。
右の写真は、絞り値が大きい状態で撮影しています。被写体のみでなくその前後の広い範囲にピントが合って見え、記念撮影等に適した写真になっています。
このような背景の描写は、レンズの絞りで調節できます。絞りとは、フィルムに露光される光の量を調節する穴のことで、左のように絞り値が小さい（F3.5、4など）ほど背景がぼけ（ピントの合う範囲が狭くなり）、右のように大きい（F16、22など）ほど背景までピントが合い（ピントの合う範囲が広くなり）ます。

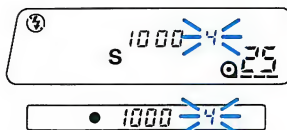
●広角レンズほど背景までピントが合い、望遠レンズほど背景がぼけやすくなります。
●カメラから被写体までの距離が短いほど、背景がぼけやすくなります。
●このカメラでは、αシリーズの絞り値と数値が若干異なることがあります。

動いているものの描写を変えてみましょう（Sモード撮影）

このモードでは、カメラのシャッター速度を変えることができます。シャッター速度が変わると、動いているものの写り方が変わります。シャッター速度が速いときには動いているものがくっきりと止まって見え、遅いときは動いているものが流れるように写ります。

1. 撮影シーン／露出モード切り替えレバーをASM側にします。

2. 撮影シーン／露出モード選択ボタンを押して、ボディ表示部にSを表示させます。

3. ダイヤルを回して希望のシャッター速度を選びます。

●設定できるシャッター速度の範囲は、30秒～1/2000秒です。

（次ページへ続く）

動いているものの描写を変えてみましょう（Sモード撮影）

●絞り値が点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたはアンダーの写真になります。点滅しなくなるまでシャッター速度を変更してください。

●表示部の60、125といった数字は、1/60秒、1/125秒を表します。2"、4"など「"」の文字が出ている場合は、2秒、4秒を表します。

Sモードフラッシュ撮影

Sモードでフラッシュを上げているときはPモードと同じになり、シャッター速度、絞り値とも自動的に決まります。撮影者が自分でシャッター速度を選ぶことはできません。

●フラッシュは自動発光しません。フラッシュモード選択ボタンを押してフラッシュを上げて撮影してください。ボディ表示部には⚡が表示されます。

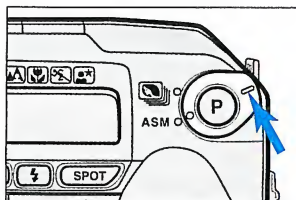
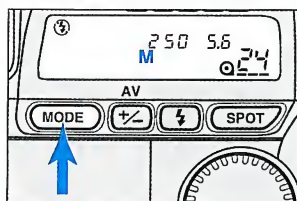
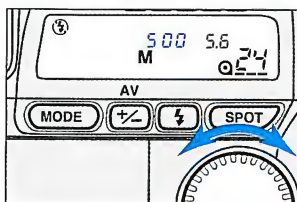
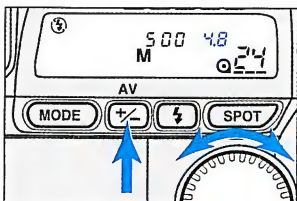
●フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。ボディ表示部には㊋が表示されます。

シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき

左の写真は、速いシャッター速度で撮影しています。水しぶきが止まって見え、その様子がよく分かります。
右の写真は、遅いシャッター速度で撮影しています。水の流れがよく表現されています。
このような動いているものの描写は、カメラのシャッター速度で調節できます。シャッター速度とは、光がフイルムに当たっている時間のことで、左のようにシャッター速度が速い（1/500、1/1000秒など）ほど動くものは止まって写り、右のように遅い（1/15、1/30秒など）ほど流れるように写ります。

自由に露出を決めることができます(Mモード撮影)

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。露出計を使って撮影するとき、露出を少しずつ変えて撮影するときなどに便利です。

1. 撮影シーン／露出モード切り替えレバーをASM側にします。

2. 撮影シーン／露出モード選択ボタンを押して、ボディ表示部にMを表示させます。

3. ダイヤルを回して希望のシャッター速度を選びます。

4. 露出補正／Mモード絞りボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

Mモードフラッシュ撮影

フラッシュは自動発光しません。フラッシュモード選択ボタンを押してフラッシュを上げて撮影してください。

- ボディ表示部には⚡が表示されます。
- 1/125秒より速いシャッター速度は選べません。
- 絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光の届く範囲が小さくなります。できるだけ絞り値を小さくして（開放側で）撮影してください。
- フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。ボディ表示部には⊘が表示されます。

Mモードでのファインダー表示

左記の方法でが設定したシャッター速度と絞り値で撮影すると、露出がどのようになるかをファインダー表示でお知らせします。ファインダー内に⊞が表示されると露出オーバーの写真に、⊟が表示されるとアンダーの写真になります。どちらも表示されないときは適正露出（カメラが適正と判断した値）になります。

- このカメラではシャッター速度よりも絞り値のほうが細かく設定できるため、シャッター速度だけを変えて適正露出にならないときは、絞り値を変えてください。
- Mモードでは露出補正は使えません。
- 露出オーバー、アンダーの説明については、84ページをご覧ください。

適正露出

● 125 ⊞ 4.8

露出オーバー

● 500 ⊟ 8

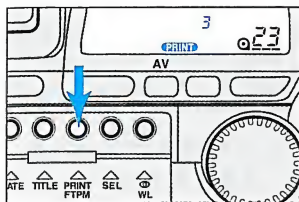
露出アンダー

有効にご活用いただくために

プリント枚数指定

撮影前にプリントする枚数を指定したり、撮影後にそのコマをプリントしないように指定できます。

撮影前にプリントする枚数を指定する

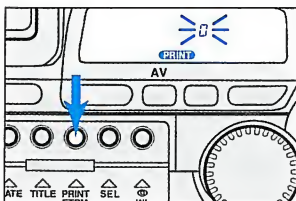
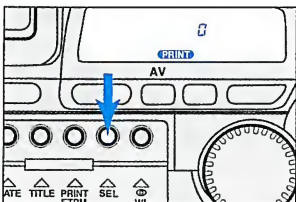
複数の人数で記念写真などを撮影するときに、プリント枚数をあらかじめ指定しておけば、その枚数分がプリントされてきます。現像後に再度焼き増しの注文をする手間を省くことができます。

1. 撮影前に背面のカバーを開け、プリント枚数指定ボタンを押してプリントしたい枚数を選びます。

- プリント枚数は、1枚～9枚の間で選べます。
- シャッターボタンを半押しすると、通常の撮影表示に戻ります。ボディ表示部に PRINT が表示され、プリント枚数が設定されていることをお知らせします。

2. 撮影します。

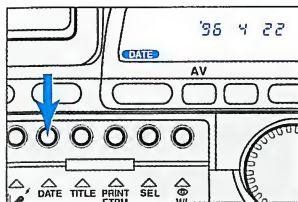
- 撮影後は、プリント枚数の設定は解除されます（1枚に戻ります）。撮影前に解除するときは、プリント枚数指定ボタンを押して「1」を選んでください。
- 実際に撮影される（フィルム上に写っている）のは1枚だけです。フィルムカウンターも1コマしか進みません。
- 現像後、再度焼き増しすることもできます。
- リバーサルフィルム使用時は、初期設定は0枚になっています。0～9枚の間でプリント枚数が指定できます。
- 現像・プリント取扱店によっては、プリント枚数指定に対応していないところもあります。詳しくはお店の方にお問い合わせください。

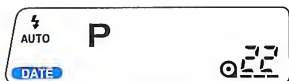
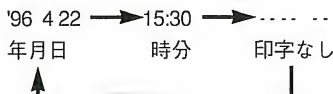
撮影後にそのコマのプリントを取り消す

撮影した瞬間にカメラの前を人が横切った、フラッシュ撮影で目を閉じてしまった、などという場合、この指定をすれば、そのコマはプリントされません。

1. **撮影後に背面のカバーを開け、ボディ表示部に「0」が点滅するまで、プリント枚数指定ボタンを何秒間か押し続けます。**

2. **セレクト（修正位置選択）ボタンを押します。**
   - フィルムが前のコマまで戻って、プリント枚数が0枚に設定されます。

- プリントを取り消すときは、撮影後、次のコマを撮影する前に指定してください。
- いったん取り消した後は、再びプリント枚数を指定することはできません。
- 取り消しても、フィルム上にはそのコマが写ってますので、焼き増しでプリントすることができます。また、取り消ししても撮影残り枚数が増えることはありません。
- フィルムの最後のコマでは、すぐに巻き戻しが始まるため、プリントの取り消しはできません。
- 現像・プリント取扱店によっては、プリントの取り消しに対応していないところもあります。詳しくはお店の方にお問い合わせください。

日付・時間を写し込むには

このカメラでは、撮影時の日付や時間は、磁気情報によりフィルムに記録され、プリントの表裏両側に印字することができます。

撮影の前に、カメラ背面のカバーを開け、日付／時間印字ボタンを押して希望の表示を選びます。

●日付／時間印字ボタンを押すごとに、表示が図のように切り替わります。

●選んだ後、シャッターボタンを半押しすると、通常の撮影表示に戻ります。ボディ表示部に DATE が表示され、日付または時間が印字されることをお知らせします。

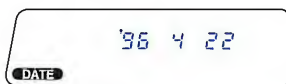
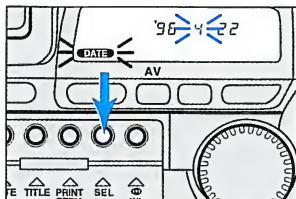
●「年月日」または「時分」を選んだ場合は、プリントの表裏両面に「年月日」または「時分」が印字されます。

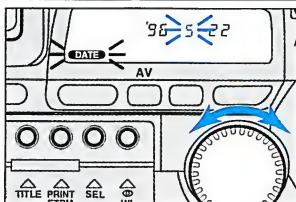
●印字なしを選んだ場合はプリント表面には印字されず、裏面に「年月日時分」が印字されます。

●お店によっては、表面の印字に対応していないところもあります。詳しくはお店の方にお尋ねください。

日付と時間の修正

2029年までの日付が記憶されています。カメラ本体の電池を外すと日付が消去されることがありますので、電池交換後、メインスイッチを入れたときに---- --と DATE が点滅していたら、日付と時間を設定し直してください。

●点滅していた場合は、設定し直さなければ日付は印字されません。

1. 背面のカバーを開け、日付／時間印字ボタンを押して、「年月日」「時分」または---- --を表示させます。

2. セレクト（修正位置選択）ボタンを押して、変更したい数字を点滅させます。

● セレクトボタンを押すたびに、年→月→日→時→分の順に数字が点滅します。

3. ダイヤルを回して、数字を変更します。

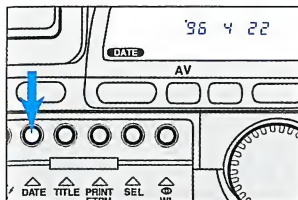
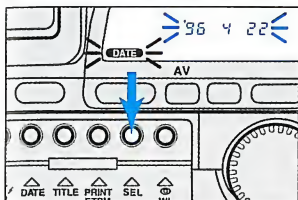
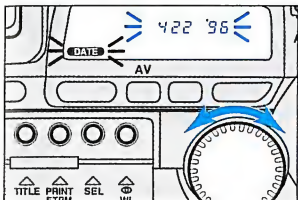
4. 他にも修正個所があるときは、2と3の操作を繰り返します。

5. 修正が終わったら、点滅している数字がなくなるまでセレクト（修正位置選択）ボタンを押すか、日付／時間印字ボタンを押します。

●設定後、シャッターボタンを半押しすると通常の撮影表示に戻ります。

●数値が点滅している状態で他のボタンを押すなどした場合は、変更した数値は無効になります。

「年月日」の並び変え

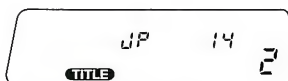
「年月日」の順序を変えることができます。表示部の順序を変えると、プリントに印字される順序も同じように変わります。

1. 背面のカバーを開け、日付／時間印字ボタンを押して、「年月日」「時分」または ---- -- を表示させます。

2. 「年月日」全部が点滅するまで、セレクト（修正位置選択）ボタンを数秒間押し続けます。

3. ダイヤルを回して、「月日年」または「日月年」を選びます。

4. セレクトボタンまたは日付／時間印字ボタンを押して、日付の点滅を終了させます。

●設定後、シャッターボタンを半押しすると通常の撮影表示に戻ります。

●数値が点滅している状態で他のボタンを押すなどした場合は、変更した数値は無効になります。

タイトルを写し込むには

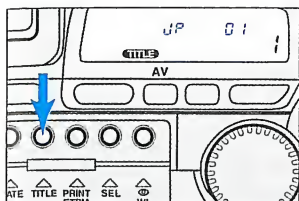
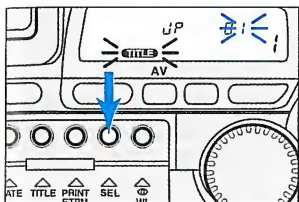
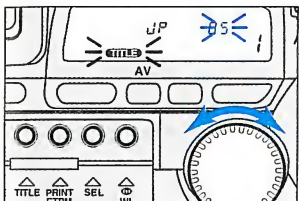
「タンジョウビ」「アイラブユー」などのタイトルをプリントの裏面に印字することができます。タイトルには、各コマごとに設定できる「コマタイトル」と、フィルム1本分を通して全コマに同じタイトルが入る「全コマ共通タイトル」の2つがあります。この2つのタイトルは1枚のプリントに一緒に印字することができます。

タイトルは、「JP 14」というように、言語の種類を表す略語（この場合JP）と2ケタの番号（14）との組み合わせで表示されます。タイトルと表示の組み合わせについては、付属の「タイトルリスト」をご覧ください。

タイトルの登録と変更

タイトルを印字するためには、タイトルリストの中から印字したいタイトルを選んで、あらかじめカメラに登録しておく必要があります。タイトルは3つ登録できます。カメラを購入されたときには、JP 01（タンジョウビ）、JP 14（アイラブユー）、JP 66（コンナニオオキクナリマシタ）の3つが登録されています。

登録されているタイトルを変更するには、次にようにします。

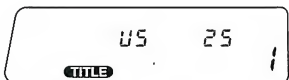
（例） JP 01（タンジョウビ）を、US 25（Happy New Year）に変更する場合

1. 付属のタイトルリストから、新たに登録したいタイトルの略語と番号（US 25）を選びます。

2. 背面のカバーを開け、タイトル選択ボタンを押して、変更したいタイトル（JP 01）を表示させます。

3. セレクト（修正位置選択）ボタンを押します。番号の一の位の数字（1）が点滅します。

4. ダイヤルを回して、一の位の数字を変更します（1→5）。

（次ページへ続く）

タイトルを写し込むには

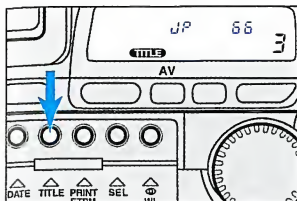
5. セレクトボタンを押して十の位の数字 (0) を点滅させ、ダイヤルを回して希望の数値にします (0→2)。

6. セレクトボタンを押して言語を表す略語 (JP) を点滅させ、ダイヤルを回して希望の言語の略語を表示させます (JP→US)。

7. セレクトボタンまたはタイトル選択ボタンを押して、すべての表示を（点滅でなく）点灯させます。

● シャッターボタンを半押しすると、通常の撮影表示に戻ります。ボディ表示部に TITLE が表示され、タイトルが印字されることをお知らせします。

● 登録されているタイトルの変更はいつでもできます。
● 日本語 (JP) 以外の言語のタイトルについては、設定通り印字されるかどうか、あらかじめお店の方にお尋ねください。
● リバーサルフィルムでのタイトルの設定については、お店の方にご相談ください。
● 数値が点滅している状態で他のボタンを押すなどした場合は、変更した数値は無効になります。

コマタイトルの入れ方

コマタイトルは、各コマ撮影前に設定します。

1. 背面のカバーを開け、タイトル選択ボタンを押して、印字したいタイトルを選びます。

●タイトル選択ボタンを押すごとに、登録されている3つのタイトルが順に表示されます。右下の数字は、現在3つのうちのいくつめのタイトルを表示しているかを表します。

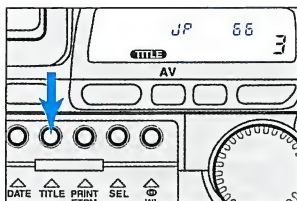
●シャッターボタンを半押しすると、通常の撮影表示に戻ります。ボディ表示部に TITLE が表示され、コマタイトルが設定されていることをお知らせします。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

●撮影後は、コマタイトルは解除されます。撮影前に解除したいときは、タイトル選択ボタンを押して---- --を選んでください。

全コマ共通タイトルの入れ方

全コマ共通タイトルは、撮影してフィルムを巻き戻した後、フィルムを取り出す前に設定します。

1. フィルムの巻き戻しが終わり、ボディ表示部に⊙が点滅するのを待ちます。

2. ⊙が点滅したら、背面のカバーを開け、タイトル選択ボタンを押して印字したいタイトルを選びます。

●タイトル選択ボタンを押すごとに、登録されている3つのタイトルが順に表示されます。右下の数字は、現在3つのうちのいくつめのタイトルを表示しているかを表します。

3. シャッターボタンを押し込みます。

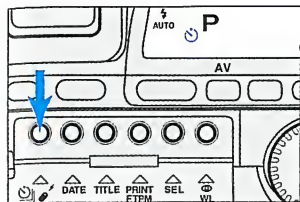
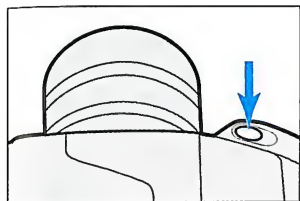
●タイトルの情報がフィルムに書き込まれます。

4. 再び⊙が点滅したら、フィルム室開放ボタンを押し、フィルムを取り出します。

●全コマ共通タイトルの設定は、1本のフィルムにつき一度だけ行うことができます。いったん設定したタイトルの取り消しややり直しはカメラではできません。お店の方にご相談ください。

●◗（途中まで撮影済み）のマークのついたフィルムを使った場合は、巻き戻し後も全コマ共通タイトルを入れることはできません。また、最初に巻き戻したときに全コマ共通タイトルを入れていた場合は、そのフィルムの全コマにそのタイトルが入ります。

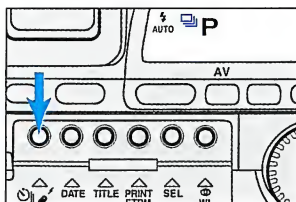
セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も写真に入ることができますので、全員での記念写真などに便利です。

1. カメラを三脚などに固定してから、セルフタイマー／連続撮影／リモコン選択ボタンを押して、ボディ表示部に⏲を表示させせます。
2. 撮りたいものにファインダー内の［　］を合わせます。

3. シャッターボタンを押します。

●カメラ前面のセルフタイマー／リモコン作動表示ランプとボディ表示部の⏲が点滅を始めます。撮影直前にはランプは点灯に変わります。

●撮影後、セルフタイマーは解除されます。
●カメラの真正面に立ってシャッターボタンを押さないでください。レンズがさえぎられてピント合わせができなくなります。
●作動中のセルフタイマーを止めるには、メインスイッチを切るか、もう一度セルフタイマー／連続撮影／リモコン選択ボタンを押してください。

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。

1. セルフタイマー／連続撮影／リモコン選択ボタンを押して、ボディ表示部に□を表示させます。

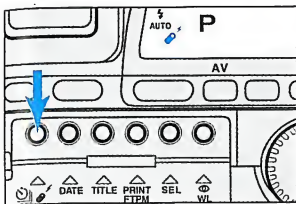
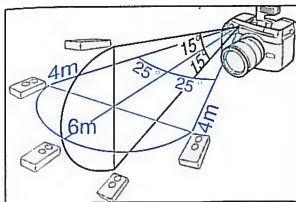
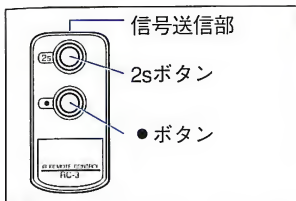
2. シャッターボタンを押し続けます。

●押し続けている間、連続して撮影されます。

●連続撮影の速度は、1コマ約1秒です。撮影中に被写体までの距離が変わったときは、そのたびにピントを合わせ直しますので、もう少し時間がかかります。フラッシュ撮影時は、フラッシュの充電が完了してからシャッターが切れます。

●コマタイトル及びプリント枚数は、連続撮影中は同じものが設定されます。

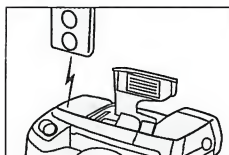
リモコン撮影

別売のリモコンを使うと、カメラから離れたところからシャッターを切ることができます。

1. セルフタイマー／連続撮影／リモコン選択ボタンを押して、ボディ表示部に を表示させます。

2. カメラを三脚などに固定して、カメラと被写体の位置を決めます。
   - 図の範囲内でリモコンを操作してください。

3. リモコンの信号送信部をカメラに向けて、2sボタンか●ボタンを押します。

- 2sボタンを押すと、カメラ前面のリモコン作動表示ランプが点滅し始め、約2秒後にシャッターが切れます。●ボタンを押した場合は、ランプが１回点滅して、すぐにシャッターが切れます。
- フラッシュが発光するときは、最初にリモコンのボタンを押したときにフラッシュが上がり、充電が始まります。数秒待ってからもう一度押すと撮影されます。最初からフラッシュが上がっているときは、フラッシュが充電していれば最初に押したときにすぐ撮影されます。

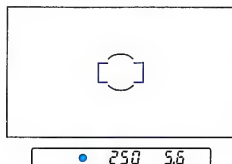
（次ページへ続く）

リモコン撮影

●撮影後も、リモコンは解除されません。
●8分以上カメラやリモコンを操作しないと、リモコン撮影は解除されます。
●カメラの後ろに明るい光源や反射物などがあるときは、アイピースキャップを付けてください(81ページ参照)。
●逆光時や蛍光灯の近くでは、リモコン撮影できないことがあります。
●リモコンは防滴ではありません。

●カメラの真上20cm以内のところから、リモコンでシャッターを切ることもできます。手ぶれ・カメラぶれを防ぐのに便利です。

●リモコンのボタンを押したときにセルフタイマー／リモコン作動表示ランプが点滅しない場合は、撮影ができていません。以下のの要領でピント位置を固定し、距離・方向などを確認の上、再度撮影してください。

被写体が画面中央にないときや、ピントを確認したいときは

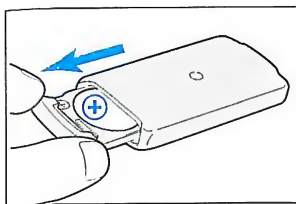
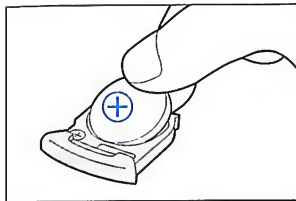
撮りたいものが［　］に入らないときやオートフォーカスでピントが合いにくいとき、また撮影前にピント位置を確認したいときは、以下の手順で撮影してください。

1. カメラを三脚などに固定して、リモコン撮影にします。

2. 撮りたいもの(またはピントを合わせたいものと同じ距離にあるもの)に［　］を合わせて、シャッターボタンを半押しします。

3. ファインダー内のフォーカス表示●が点灯したら（＝ピント位置が固定したら）、シャッターボタンから指を離します。
4. 撮りたい構図に変え、リモコンで撮影します。

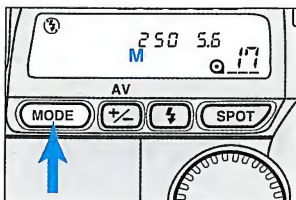
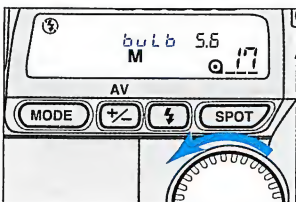
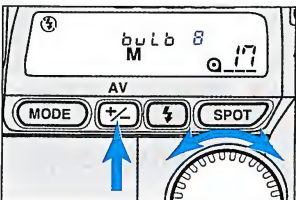
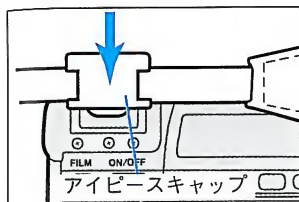
● 撮影後も、ピント位置はそのまま固定されています。カメラ本体を操作する（何かのボタンを押すなど）と解除されます。
● マニュアルフォーカス（手動ピント合わせ）で撮影することもできます。

リモコン用電池の交換

リモコン用の電池には、リチウム電池（CR2032）１個を使用しています。リモコンのボタンを押してもシャッターが切れなくなったら、電池を交換してください。（電池の寿命は約10年です。）

1. リモコンを裏向けて、電池室を引き出します。

2. 古い電池を取り出し、新しい電池を＋側を上にして入れます。
3. 電池室を元通り確実にはめ込みます。

● コイン型電池は、幼児の手の届かないところへ置いてください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

長時間露光（バルブ撮影）

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。長時間の露光が必要なときに使用します。

1. 撮影シーン／露出モード選択ボタンを押して、カメラをMモードにします（62ページ参照）。

2. ダイヤルを反時計方向に回して「buLb」を選びます。

3. 露出補正／Mモード絞りボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。
4. 構図を決めます。

5. アイピースキャップを取り付けます。

●まず、ファインダーに付いているゴム部分（アイピースカップ）を外します。

●ストラップに付いているアイピースキャップを、上からスライドしてはめ込みます。

●ファインダーから光が入るのを防ぐためです。

6. 必要な時間シャッターボタンを押し続けます。

●カメラぶれを防ぐため、カメラを必ず三脚に固定してください。リモコンの使用もおすすめします。

●プリント裏面には撮影時のシャッター速度等が印字されますが、長時間露光の場合、シャッター速度は100秒と印字されます。

長時間露光をリモコンで行う場合

手ぶれ・カメラぶれを防ぐために、リモコンでシャッターを切ることをおすすめします。

1. 上記の1～5に従って長時間露光を設定します。

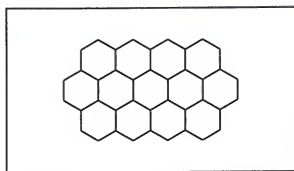
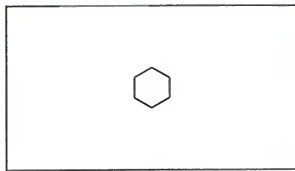
2. リモコン撮影を選びます（77ページ参照）。

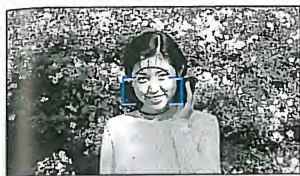
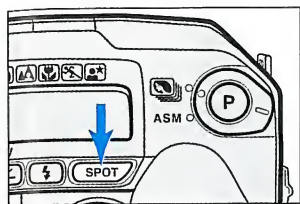
3. リモコンのボタンを押します。

● ●ボタンを押すとすぐにシャッターが開き、2sボタンを押すと2秒後にシャッターが開きます。ボタンを押し続ける必要はありません。

4. 露光が終われば、●ボタンか2sボタンのどちらかを再度押します。

●シャッターが閉じます。

特定の部分の明るさを測る（スポット測光）

14分割ハニカムパターン測光

スポット測光
（◯の部分の明るさをだけを
測光した場合）

このカメラでは、通常は画面を14の部分に分けて明るさを測り、それをもとに露出値を決めています（14分割ハニカムパターン測光）。逆光を含む一般撮影に適しており、基本的にはそのまま撮影してもほとんど問題はありません。
スポット測光にすると、画面中央部のスポット測光サークル内のみの明るさを測光します。コントラスト（明暗差）の大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するなど、意図的に明るさを調節したいときに適しています。

1. 測光したい部分にピントを合わせます。

2. 測光したい部分にスポット測光サークルを合わせ、スポットAEL／スローシンクロボタンを押します。

● ファインダー内に が表示されます。

3. スポットAEL／スローシンクロボタンを押したまま、必要ならば構図を変え、シャッターボタンを押して撮影します。

● スポットAEL／スローシンクロボタンを押している間は、シャッターボタンから指を離しても露出は固定されています。

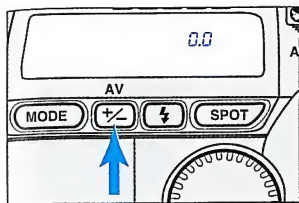
● スポット測光ができるのはフラッシュが発光しないときだけです。スポットAEL／スローシンクロボタンを押しているときにフラッシュが発光すると、スローシンクロ（夜景ポートレートモードと同じような状態）になります（95ページ参照）。

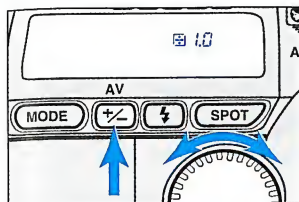
写真全体を明るくする･暗くする（露出補正）

露出オーバー

露出アンダー

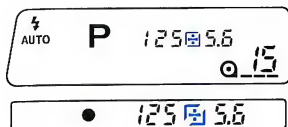
適正露出

フィルムに当たる光の量を調節して、プリントされる写真全体を明るめにしたり暗めにしたりすることができます。
フィルムに当たる光の量が多くなると、画面全体が明るくなって露出オーバーとなります。少なくなると、全体が暗くなって露出アンダーとなります。このカメラでは、意図的に露出オーバー、アンダーにする（露出補正をする）ことができます。

1. 露出補正／Mモード絞りボタンを押します。

●ボディ表示部に0.0が表示されます。

2. 露出補正／Mモード絞りボタンを押したままダイヤルを回して、希望の数値を表示させます。

●⊞は露出オーバー、⊟は露出アンダーを表します。数値が大きいほど露出補正量は多くなります。

●±3段まで設定できます。

●露出補正／Mモード絞りボタンから手を離すと、通常の撮影表示に戻ります。露出補正値は表示されませんが、⊞または⊟の表示が残り、露出補正されていることを表します。また、シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に⊞または⊟が表示されます。

●Mモードでは露出補正はできません。

●露出オーバー、アンダーは、ネガフィルムよりもリバーサルフィルムの方がはっきりした効果が出ます。ネガフィルムの場合は、FTPMをおすすめします（次ページ参照）。

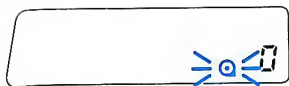
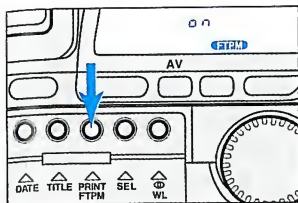
●撮ろうとしている場面が白っぽいときはオーバー側にすると白さが再現されやすく、黒っぽいときはアンダー側にすると黒さが再現されやすくなります。

全コマ同一条件プリント機能（FTPM）

FTPMを使った場合

FTPMを使わなかった場合

ネガフィルムを使用した場合、現像したフィルムをプリントするとき、お店では通常は明るさや色具合を自動的にある程度補正して、できるだけ失敗の少ない写真に仕上がるようにしています。このため、場合によっては、意図した写真と異なる仕上がりになってしまうことがあります。特に露出を変えた場合など、変更した露出がプリント時に自動的に補正されてしまい、効果が出にくくなります。
このような場合に全コマ同一条件プリント機能（FTPM機能）を使うと、プリント時の自動補正が行われなくなりますので、撮影者の意図した通りの写真に仕上げることができます。これは、ネガフィルムが、リバーサルフィルムと同じように使える機能だと考えることもできます。
FTPMは1コマ1コマに対して機能するのではなく、フィルム1本全体に対して働く機能です。

- 現像・プリント取扱店によっては、FTPM機能に対応していないところもあります。詳しくはお店の方にお問い合わせください。
- FTPM指定を行ったフィルムを現像・プリントに出す場合は、受付窓口で、FTPM指定したフィルムであることを必ずお伝えください。FTPMプリントは通常処理以上に日数を要する場合もあります。

1. フィルムの巻き戻しが終わり、ボディ表示部に◎が点滅するのを待ちます。

2. ◎が点滅したら、背面のカバーを開け、FTPMボタンを押します。

●ボディ表示部にonが表示されます。

3. シャッターボタンを押し込みます。

●FTPM情報がフィルムに書き込まれます。

4. 再び◎が点滅したら、フィルム室開放ボタンを押し、フィルムを取り出します。

●ボディ表示部にonが表示された状態でもう一度FTPMボタンを押すと、onの表示が消え、FTPMは解除された状態になります。

●途中巻き戻ししたフィルムにFTPMを設定した場合、取り出したカートリッジは✕（撮影済）となり、続きからの撮影はできなくなります。

●◗（撮影途中）のフィルムを使った場合は、巻き戻し後もFTPMを設定することはできません。

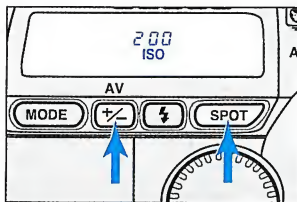
●全コマ共通タイトルも同時に入れる場合は、タイトルとFTPMの両方を設定した後、シャッターボタンを押して２つをまとめてフィルム上に書き込むこともできます。

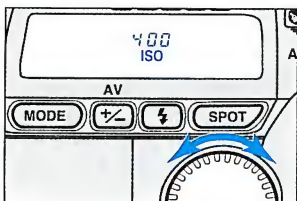
●FTPMの設定は、１本のフィルムにつき一度だけ行うことができます。いったん設定したFTPMの解除はできません。お店の方にご相談ください。

●リバーサルフィルムでは、FTPMは設定できません。

●FTPMを設定しても、明らかに失敗写真と思われるものについては、お店で補正することがあります。

フィルム感度の設定と変更

フィルム上に記載してあるフィルム感度のままで撮影する場合は、この設定及び変更は必要ありません。意図的にフィルム感度を変更する場合は、以下の要領で行ってください。

1. 露出補正／Mモード絞りボタンとスポットAEL／スローシンクロボタンを同時に押します。

●ボディ表示部に現在のフィルム感度が表示されます。

2. ダイヤルを回して、希望のフィルム感度を選びます。

●設定可能なフィルム感度の範囲はISO 6〜6400です。

●シャッターボタンを半押しすると、通常の撮影表示に戻ります。

●フィルム感度を変更した場合は、メインスイッチを入れるとボディ表示部のフィルム感度表示が点滅し、フィルム感度を変更した状態であることをお知らせします。

●フィルム感度を変更したフィルムを途中巻き戻し、再装填した場合は、もう一度同じようにフィルム感度を変更し直してください。

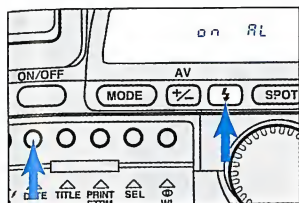
●カラーネガフィルムの場合、通常現像所では増感および減感現像*サービスに対応していませんので、これらのサービスを前提としたフィルム感度の設定はおすすめできません。

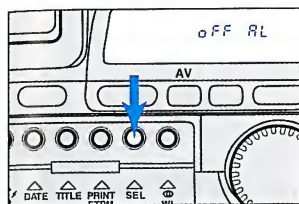
*増感（減感）現像　フィルムの感度が上がるように（または下がるように）現像すること

ピント合わせのためにフラッシュが光ります（ＡＦ補助光）

暗いところでフラッシュ撮影をしていると、シャッターボタンを半押ししたときに、フラッシュが光ることがあります。これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするために発光するＡＦ補助光です。

- この補助光によってピントが合う範囲は1～5mです（当社試験条件）。
- 別売のフラッシュを付けているときは、そのフラッシュの補助光が発光します。
- スポーツモードでは補助光は発光しません。

内蔵フラッシュによるＡＦ補助光を禁止したいときは

1. フラッシュモード選択ボタンと日付／時間印字ボタンを同時に押します。

- ボディ表示部に「on AL」と表示されます。

2. セレクトボタンを押して、「oFF AL」と表示させます。

- シャッターボタンを半押しすると、通常の撮影表示に戻ります。

- 上記の操作を繰り返してもう一度「on AL」と表示させると元に戻ります。

ワイヤレスフラッシュ撮影

フラッシュをカメラに
取り付けて撮影

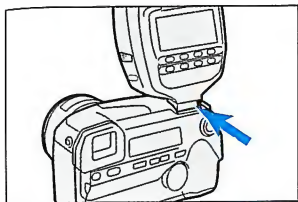
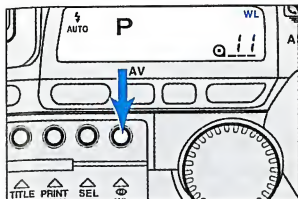
ワイヤレスフラッシュ撮影

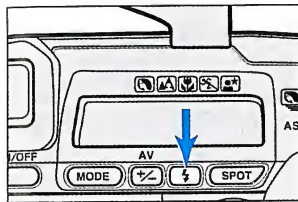
ワイヤレスフラッシュ撮影
(光量比制御)

フラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、上の写真のように平面的な写真になることがあります。このようなとき、フラッシュをカメラから取り外して離して撮影すると、フラッシュの位置を工夫することで、中央の写真のように陰影をつけて立体感を出すことができます。
下の写真は、カメラの内蔵フラッシュとカメラから離したフラッシュの光量を、1：2の割合で発光させたものです(光量比制御撮影)。明暗差がやわらかくなり、自然な陰影をつけることができます。
このカメラでは、カメラとフラッシュの信号の伝達をフラッシュの光を利用して行うことができますので、フラッシュをカメラから離して撮影することができます。この撮影をワイヤレス(=コードのない)フラッシュ撮影といいます。もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるように制御します。

ワイヤレスフラッシュ撮影には、別売のプログラムフラッシュ5400HS、5400xi、3500xiのいずれかが必要です。

● プログラムフラッシュ5400HS、5400xi、3500xiは防滴ではありません。

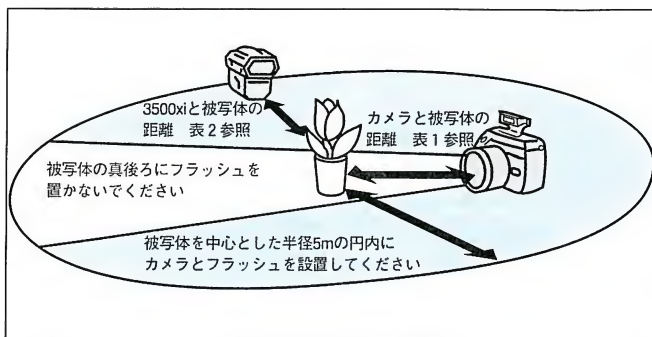
ワイヤレスフラッシュ撮影方法

1. フラッシュをカメラに取り付け、両方の電源を入れます。

2. 赤目軽減／ワイヤレスフラッシュボタンWLを押します。
●ボディ表示部にWLが表示されます。

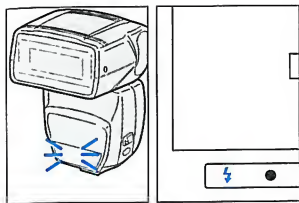
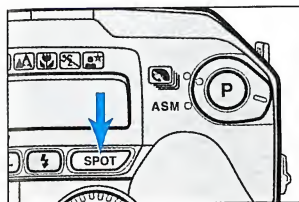
3. フラッシュをカメラから取り外します。

4. カメラのフラッシュモード選択ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げます。

(次ページへ続く)

5. カメラとフラッシュの位置を決めます。

このカメラは、内蔵フラッシュの発光を信号として5400HSや5400xi、3500xiを発光させます。信号が正しく受け取れるように以下のことに気を付けてください。

- ●室内など、暗いところで撮影してください。
- ●以下の図表は、3500xiを使用するときのものです。その他のフラッシュを使われるときは、フラッシュの使用説明書をご覧ください。

絞り値	カメラと被写体の距離（表１）	3500xiと被写体の距離（表２）
F4	1.4 - 5.0 m	1.0 - 5.0 m
F4.8	1.2 - 5.0 m	0.85 - 5.0 m
F5.6	1.0 - 5.0 m	0.7 - 4.5 m

（ISO 200のフィルム使用時）

6. フラッシュとカメラの内蔵フラッシュの充電完了を確認します。
●フラッシュは、背面の⚡マークが点灯し、前面のAF補助光が点滅すると充電完了です。
●内蔵フラッシュは、ファインダー内の⚡が点灯すると充電完了です。

7. カメラのスポットAEL／スローシンクロボタンを押して、カメラから離したフラッシュが発光することを確認します(テスト発光)。
8. もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

ワイヤレスフラッシュ撮影をリモコンで行う場合

リモコンを使ってワイヤレスフラッシュ撮影をする場合は、以下の点に気を付けてください。フラッシュが誤発光することがあります。
●リモコンとフラッシュの距離は１m以上離してください。
●フラッシュに向けてリモコンを送信しないでください。

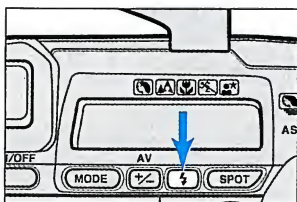
ワイヤレスフラッシュの解除

1. フラッシュをカメラに取り付け、両方の電源を入れます。
2. 赤目軽減／ワイヤレスフラッシュボタンを押します。
● ボディ表示部のWLが消えます。

● カメラとフラッシュを別々に解除する場合
カメラ側を解除するには、赤目軽減／ワイヤレスフラッシュボタンを押します。
プログラムフラッシュ3500xiを解除するには、いったんフラッシュをOFFにして、次にフラッシュのワイヤレスランプが消えるまでON/OFFボタンを押し続けます。

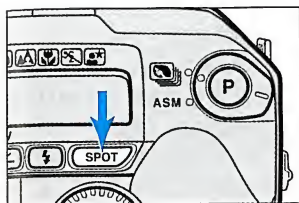
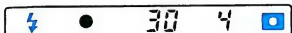
それ以外のフラッシュの解除方法については、フラッシュの使用説明書をご覧ください。

光量比制御撮影
(内蔵フラッシュとカメラから離したフラッシュを1：2の割合で発光させる)

内蔵フラッシュを1、カメラから離したフラッシュを2の割合で発光させることができます。(逆はできません。)

通常のワイヤレスフラッシュ撮影と同様にカメラとフラッシュを設定し、カメラのフラッシュモード選択ボタンを押しながら、シャッターボタンを押して撮影します。

スローシンクロ撮影

夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュ光の届かない背景は黒くつぶれてしまいます。そのような場合にこの機能を使うと、人物も背景もきれいに撮ることができます。

●夜景ポートレート撮影でも同じ効果が得られます(52ページ参照)。

スポットAEL/スローシンクロボタンを押しながら、シャッターボタンを押して撮影します。

- A/S/Mモードでフラッシュが下がっているときは、フラッシュモード選択ボタンを押してフラッシュを上げて撮影してください。
- フラッシュが発光しないときにスポットAEL/スローシンクロボタンを押していると、スポット測光になります(82ページ参照)。
- 手ぶれしやすいので、三脚を使用してください。

知っておくと便利です

おまかせＰモードボタン

おまかせＰボタンを押すと、カメラの各機能は次の状態になります。

機能	おまかせPモードの設定
撮影モード	Ｐモード
ピント合わせ	オートフォーカス
フラッシュモード	自動発光
巻き上げモード	１コマ撮影
露出補正	±０
ワイヤレスフラッシュ	解除

● 日付／時間、タイトル、プリント枚数指定、赤目軽減機能、フィルム感度設定、AF補助光の有無は変わりません。

プリント時のサービスについて

このカメラで撮影したフィルムを現像・プリントに出すときは、「現像プリントサービス認定店」の認定マークを掲示しているお店にお出しください。認定店に現像・プリントを依頼されますと、以下のサービスを受けることができます。

1 **プリントタイプ切り替え (C/H/P) に対応します。**
撮影時にお客様の設定されたプリントタイプでプリントします。

2 **日付やタイトルを裏面に印字します。**
日付や時間、お客様が設定されたタイトルなどを、プリントの裏面に印字してお返しします。

3 **高品質なプリント画像が得られます。**
フィルムに自動的に記録される磁気情報をもとにして現像・プリントされますので、最適な画像が得られます。

4 **フィルムをカートリッジに入れてお返しします。**
現像済のフィルムは、カートリッジに入った状態でお客様にお返しします。現像済みのフィルムの使用状態マークは■になります。

5 **インデックスプリントをお渡しします。**
１本のフィルムに記録されているすべての写真を、まとめて１枚にプリントし、カートリッジと一緒にお返しします。

これらの５つのサービスは、それぞれお客様のご要望に応じて変更することができます。詳しくはお店の方にお問い合わせください。

●プリント枚数指定、日付やタイトルの印字、FTPM機能の撮影後の変更や取り消しについては、お店の方にご相談ください。リバーサルフィルムでこれらの設定を行った場合も、詳細についてはお店の方にお問い合わせください。

このカメラと組み合わせて使えるアクセサリー

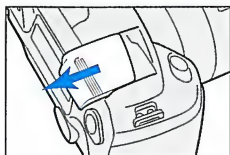
このカメラの機能を活用していただくためには、当社独自のノウハウによりボディ特性に適合するように設計・製造管理されているレンズおよび付属品の使用をおすすめします。当社製品以外の付属品を単に装着できるというだけでお使いになる場合、いかなる事象が生じるかについては予想いたしかねます。

レンズ

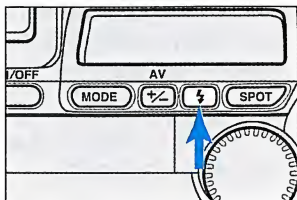
ベクティス用に開発されたミノルタVレンズをお使いください。それ以外のレンズ（αレンズ、MDレンズなど）はご使用になれません。

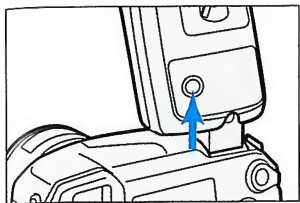
フラッシュ

内蔵フラッシュでは光が届かないような撮影距離でも、より大光量のベクティスフラッシュやプログラムフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。

- このカメラでは、αシステムのプログラムフラッシュもご使用になれます。以下の操作方法と注意事項を読んでからお使いください。

- 別売のフラッシュをご使用になる場合は、カメラのアクセサリーシューキャップを外してお使いください。

＜別売フラッシュ使用時の操作方法＞

カメラ側、フラッシュ側のどちらでも操作できます。

カメラ側で操作する場合

カメラのフラッシュモード選択ボタンを押します。カメラの表示部に自動発光 AUTO、強制発光、発光禁止のどれかが表示されますので、希望のモードを選んで撮影します。

フラッシュ側で操作する場合
フラッシュの発光ON/OFF切り替えボタンを押します。押した後、シャッターボタンを半押しするとカメラの表示部に現在のモードが表示されます。自動発光 AUTO と発光禁止 しか選択できませんので、フラッシュを必ず発光させたいとき（強制発光）はカメラ側で操作を行ってください。

● A／S／Mモード時は、内蔵フラッシュと同じく強制発光 または発光禁止 しか選べません。

＜別売フラッシュ使用時の注意事項＞

● ミノルタベクティスフラッシュSF-1を取り付ける場合、カメラとフラッシュの接点が濡れているときは、乾いた布でふき取ってください。
● ベクティスフラッシュ以外のフラッシュは防滴ではありません。雨天でのご使用はお避けください。
● 新システムのフィルムは、35mmフィルムと比べてフィルムのサイズが異なるため、同じ焦点距離でも画角が異なってきます。
プログラムフラッシュをお使いの場合は、以下の表をもとにして、フラッシュ光のカバーする範囲（照射角）を確認してください。

35mmフィルムでの照射角	新システムカメラ・レンズに取り付けたときにカバーできる範囲
24 mm	19 mm
28 mm	22 mm
35 mm	28 mm

例えば、35mmフィルムシステムで照射角28mmのフラッシュをこのカメラに取り付けた場合、Vズーム22-80mm F4-5.6のレンズの画角を完全にカバーします。

このカメラと組み合わせて使えるアクセサリー

●プログラムフラッシュ5400HS、5400xi、5200i、4000AFをお使いの場合、照射角が正確に表示されないことがありますが、実際の撮影には何ら問題はありません。(例えば、Vレンズの焦点距離が56mmのときはフラッシュ上では50mmまたは60mmで表示され、焦点距離が22mmのときはフラッシュ上では24mmが点滅します。)距離表示もそのまま使用できます。

●プログラムフラッシュ3500xi、2000xi、3200i、2000iをお使いの場合は、フラッシュの使用説明書の調光距離範囲表がそのまま使えます。

●プログラムフラッシュ4000AF、2800AF、1800AF、マクロ1200AFをご使用になる場合は、別売のフラッシュシューアダプターFS-1100を使ってカメラに取り付けてください。これらのフラッシュ使用時は、

・おまかせPモードでもフラッシュがONのときは必ず発光します。

・フラッシュのAF補助光は発光しません。

●AFシリーズ以前のフラッシュ(Xシリーズなど)は使用できません。

その他

以下のものは、このカメラと組み合わせてのご使用はできません。

・クローズアップディフューザーCD-1000
・ワイヤレスフラッシュリモコン
・視度調整アタッチメント1000
・ワイヤレスコントローラーIR-1N

この使用説明書は1996年8月に作成されたものです。それ以降に発売されたアクセサリーとの組み合わせは、本書裏面に記載の当社サービスセンター、サービスステーションにお問い合わせください。

取り扱い上の注意

手入れのしかた

- カメラボディやレンズの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、レンズブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーをしみ込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ上にかけることはお避けください。
- ミラーなど、カメラの内部に触れないでください。故障の原因になります。カメラ内部のミラーは、多少ホコリがついていても露出等には影響しません。
- カメラ内部をボンベブロアーで吹かないでください。故障の原因になります。
- シンナー、ベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは使わないでください。
- レンズ面には直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 使用しないときは、必ずレンズキャップまたはボディキャップを付けてください。
- 保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤といっしょに入れるとより安全です。
- 防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
- 保管中も時々シャッターを切るようにして、使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。
- 万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

●本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。

●アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。

万一、不具合が生じたときは

●お問い合わせの際に、カメラの機種名と現象をお伝えください。

●修理を依頼される場合は、不具合が生じたときのフィルムも一緒にお持ちください。

磁気IX情報を使ったプリントサービスについてのご注意

アドバンストフォトシステムでは、撮影時にフィルムに記録された磁気IX情報を活用して、高品質プリント、データ印字など多種のプリントサービスができるようになりました。ミノルタベクティスS-1は、アドバンストフォトシステムの先進機能を多数搭載し、磁気IX機能についても多くの先進機能に対応しています。ただし、現像所によっては以下の機能への対応が異なる場合があります。

FTPM（全コマ同一条件プリント機能、86ページ）
日付・時間のプリント表面への印字（67ページ）
プリント枚数指定（65ページ）
撮影データ（シャッター速度等）のプリント裏面への印字

フィルムを現像・プリントに出す場合は、これらの機能について現像・プリント受付窓口でご確認ください。対応していない現像所へ現像・プリントを出した場合、お客様が意図したとおりのプリントに仕上がらないことがあります。
FTPM指定を行ったフィルムを現像・プリントに出す場合は、受付窓口で、FTPM指定したフィルムであることを必ずお伝えください。
FTPMプリントは通常処理以上に日数を要する場合もあります。

主な性能

カメラタイプ：　IX240システムカメラ
使用レンズ：　ミノルタVレンズ
オートフォーカス：　方式：TTL位相差検出方式　検出素子：CCDラインセンサー　検出範囲：EV1〜19 (ISO 200)
AF補助光：　内蔵フラッシュによる補助光　作動距離範囲：約1〜5m
測光方式：　フラッシュ非発光時：14分割ハニカムパターン測光／スポット測光　フラッシュ発光時：TTL4分割ダイレクト調光　受光素子：14分割ハニカムパターンSPC（シリコンフォトセル）（フラッシュ非発光時）、4分割SPC（フラッシュ発光時）測光範囲：EV3〜21、スポット測光時EV6〜21（ISO 200、F3.5レンズ）
シャッター：　電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター　シャッター速度：1/2000〜30秒、バルブ（露出時間は電池の寿命により制限）　フラッシュ同調速度：1/125秒（ワイヤレスフラッシュ撮影時は1/45秒）
内蔵フラッシュ：　ガイドナンバー：14（ISO 200）　照射角：焦点距離22mmをカバー　充電時間：約2.5秒　P／ポートレート／記念撮影／夜景ポートレート：自動発光（逆光・低輝度）／強制発光／発光禁止　クローズアップ／スポーツ：自動発光（低輝度）／強制発光／発光禁止　A／S／M：強制発光／発光禁止
ファインダー：　一眼レフレックス方式、TTLリレー光学系ファインダー　視野率：95%　倍率：0.8倍　視度：-4〜+2ディオプトリー　アイポイント：接眼レンズ後面より25mm
フィルム給送：　ワンタッチローディング　1コマ撮影／連続撮影（約1コマ／秒）　カウンター：逆算カウンター
フィルム感度：　自動設定：ISO 25〜6400　手動設定：ISO 6〜6400

主な性能

使用電池：　3Vリチウム電池（CR2）2本

撮影可能本数：　試験条件　25枚撮りフィルム、新品電池使用　使用レンズ：Vズーム22-80mm F4-5.6　レンズを1コマ毎に無限遠から2mまで2回往復させ、シャッターボタン半押しで10秒持続後レリーズ　これを2本／月の割合で撮影する

温度	20℃
フラッシュ使用しない	約25本
フラッシュ50%使用	約15本
フラッシュ100%使用	約10本

●電池は、実際に撮影しなくてもカメラを操作することで消耗します。電池を長持ちさせるために、撮影しないときはメインスイッチを切ってください。

大きさ：　126.5 x 76.5 x 63.5mm

重さ：　365g（電池別）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能及び外観は都合により予告なく変更することがあります。

ボディ底面のこのマーク（CEマーク）は、本製品が電気安全・電波障害に関するEU（欧州連合）の要求事項に適合していることを示すものです。CEとはフランス語の Conformité Européenne（ヨーロッパ認定）の頭文字です。

あれ？と思ったときは

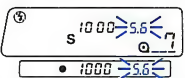
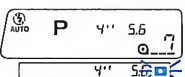
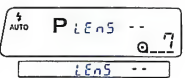
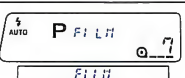
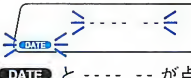
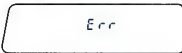
故障かな？と思ったとき、あるいは思うような写真が撮れないときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときやわからないときは、お近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。

ピントが合わない。
→ コントラストのないものや、オートフォーカスの苦手なものを撮影する場合は、フォーカスロック、または手動によるピント合わせを行ってください。
→ レンズの最近接撮影距離に注意して撮影してください。(最近接撮影距離については、レンズの使用説明書をご覧ください。)

シャッターが切れない。
→ このカメラでは、ピントが合わないとシャッターが切れません。

シャッターボタンを半押しするとフラッシュが発光する。
→ ピント合わせのためのフラッシュ（AF補助光）です。

写真がぶれてしまう。
→ 体を固定して脇をしめ、左手でレンズの下側を支え、ゆっくりシャッターボタンを押してください。
→ 高感度フィルムを使うと、手ぶれが少なくなります。また、望遠レンズを使ったり、フラッシュを発光させずに撮影すると手ぶれしやすくなります。三脚の使用をおすすめします。

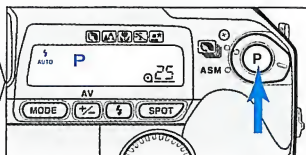
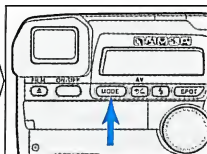
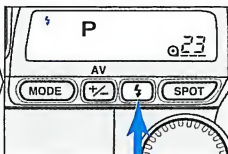
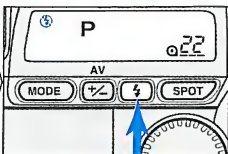
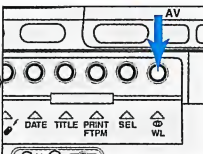
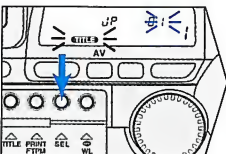
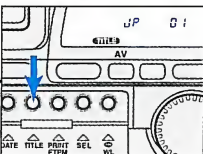
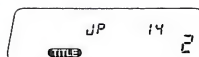
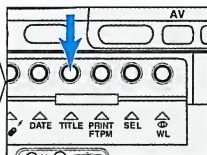
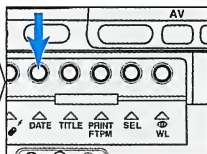
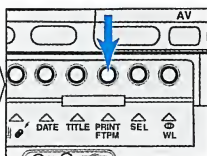
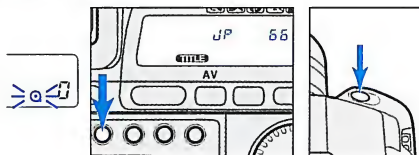
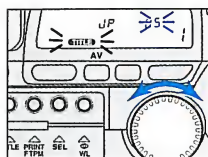
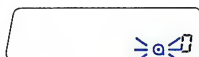
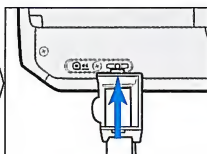
フラッシュ撮影でプリントしたものが暗い。
→ フラッシュ光の届く距離内で撮影してください。

フラッシュ撮影でプリントしたものの下部が暗くなる。
→ レンズフードを外して撮影してください。

ボディ表示部に何も表示されない。
→ 電池が消耗している場合は、新しい電池と交換してください。
→ 電池を一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合、また何度も繰り返す場合は、お近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。

警告表示一覧表

モード	表示部	原因
P	シャッター速度と絞り値が点滅	被写体が明るすぎる、または暗すぎて使用レンズの絞り値、シャッター速度の範囲を超えています。
A	2000、125または30"が点滅	被写体が明るすぎる、または暗すぎてシャッター速度の範囲を超えています。
S	最大または最小絞り値が点滅	被写体が明るすぎる、または暗すぎて使用レンズの絞り値の範囲を超えています。
スポット	■が点滅	被写体が暗すぎてカメラの測光範囲を超えています。
	「LEnS」が点灯	レンズが取り付けられていません。
	「FILM」が点灯	フィルムが入っていません。
	DATE と ---- -- が点滅	電池交換のため、日付の情報が失われました。
	「Err」が点灯	カメラに異常が発生しています。

処置	ページ
被写体が明るすぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体が暗くなるようにします。被写体が暗すぎるときは、フラッシュ撮影を行うか、被写体が明るくなるようにします。	–
シャッター速度が点滅しないように絞り値を変更します。	56, 57
絞り値が点滅しないようにシャッター速度を変更します。	59, 60
被写体が暗すぎるときは、フラッシュ撮影を行うか、被写体が明るくなるようにします。	–
レンズをきっちりと取り付けてください。また、天体望遠鏡などにカメラを取り付けた場合は、フィルムが入っているとシャッターが切れません。お近くのサービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。	22
フィルムを入れてください。	26〜29
日付と時間を再設定してください。	68
メインスイッチをいったん切って入れ直すか、電池を一度取り出して入れ直してください。それでも直らない場合はお近くのミノルタサービスセンター・サービスステーションにご連絡ください。	–

○○○したいときは・・・

おまかせ
Pモードに
したい
AUTO
P
25
ASM
AV
MODE
SPOT
撮影シーン
セレクターで
撮りたい
MODE
AV
SPOT
ポートレート
記念撮影・風景
クローズアップ
スポーツ
夜景ポートレート・夜景
フラッシュを
必ず
発光させたい
P
23
AV
MODE
SPOT
フラッシュを
発光させずに
撮りたい
P
22
AV
MODE
SPOT
目が赤く
写るのを
軽減したい
AV
DATE
TITLE
PRINT
FTPM
SEL
WL
AUTO
P
21
登録した
タイトルを
変更したい
JP
01
TITLE
AV
DATE
TITLE
PRINT
FTPM
SEL
WL

登録した
タイトルを
印字したい
AV
DATE
TITLE
PRINT
FTPM
SEL
WL
JP
14
2
TITLE
日付・時間を
印字したい
'96 4 22
DATE
プリント枚数を
指定したい
3
PRINT
17
全コマ共通
タイトルを
印字したい
0
JP
66
TITLE
フィルムを
途中で
巻き戻したい
0
JP
5
1
TITLE

ミノルタ株式会社
ミノルタカメラ販売株式会社

使い方に関する不明な点は、下記住所のフォトアドバイザーがお答えいたします。

サービスセンター

新　宿　〒160 東京都新宿区新宿3-17-5 (カワセビル3階)
　　　　TEL　(03)3356-6281(代)
大　阪　〒530 大阪市北区梅田1-11 (大阪駅前第4ビル7階)
　　　　TEL　(06)341-6501(代)

サービスステーション

札　幌　〒060 札幌市北区北7条西1-1-5 (丸増ビルNo.18)
　　　　TEL　(011)737-1212(代)
仙　台　〒980 仙台市青葉区二日町14-15 (アミ・グランデ二日町ビル3階)
　　　　TEL　(022)261-3431(代)
新　潟　〒950 新潟市鐙西1-2-1
　　　　TEL　(025)244-7188(代)
横　浜　〒231 横浜市中区尾上町4-47 (大和横浜ビル3階)
　　　　TEL　(045)663-1445(代)
静　岡　〒420 静岡市御幸町5-9 (静岡FSビル7階)
　　　　TEL　(054)251-7301(代)
名古屋　〒460 名古屋市中区丸の内1-4-12 (アレックスビル4階)
　　　　TEL　(052)239-1251(代)
金　沢　〒921 金沢市玉鉾町3-9
　　　　TEL　(0762)91-1121(代)
広　島　〒730 広島市中区小町3-25 (住金物産広島ビル1階)
　　　　TEL　(082)247-3969(代)
高　松　〒760 高松市今里町1-17-20
　　　　TEL　(0878)35-5568(代)
福　岡　〒812 福岡市博多区博多駅東2-2-2 (博多東ハニービル1階)
　　　　TEL　(092)441-6121(代)

営業時間 ・・・・・・・・・・・・新宿・大阪　10:00〜18:00 (日・祝日定休)
　　　　　　　　　　　　その他　9:00〜17:30 (土・日・祝日定休)

9223-2101-81 (P9608-C608)